

「家庭・地域の教育力の向上に関する特別委員会」
審議状況について

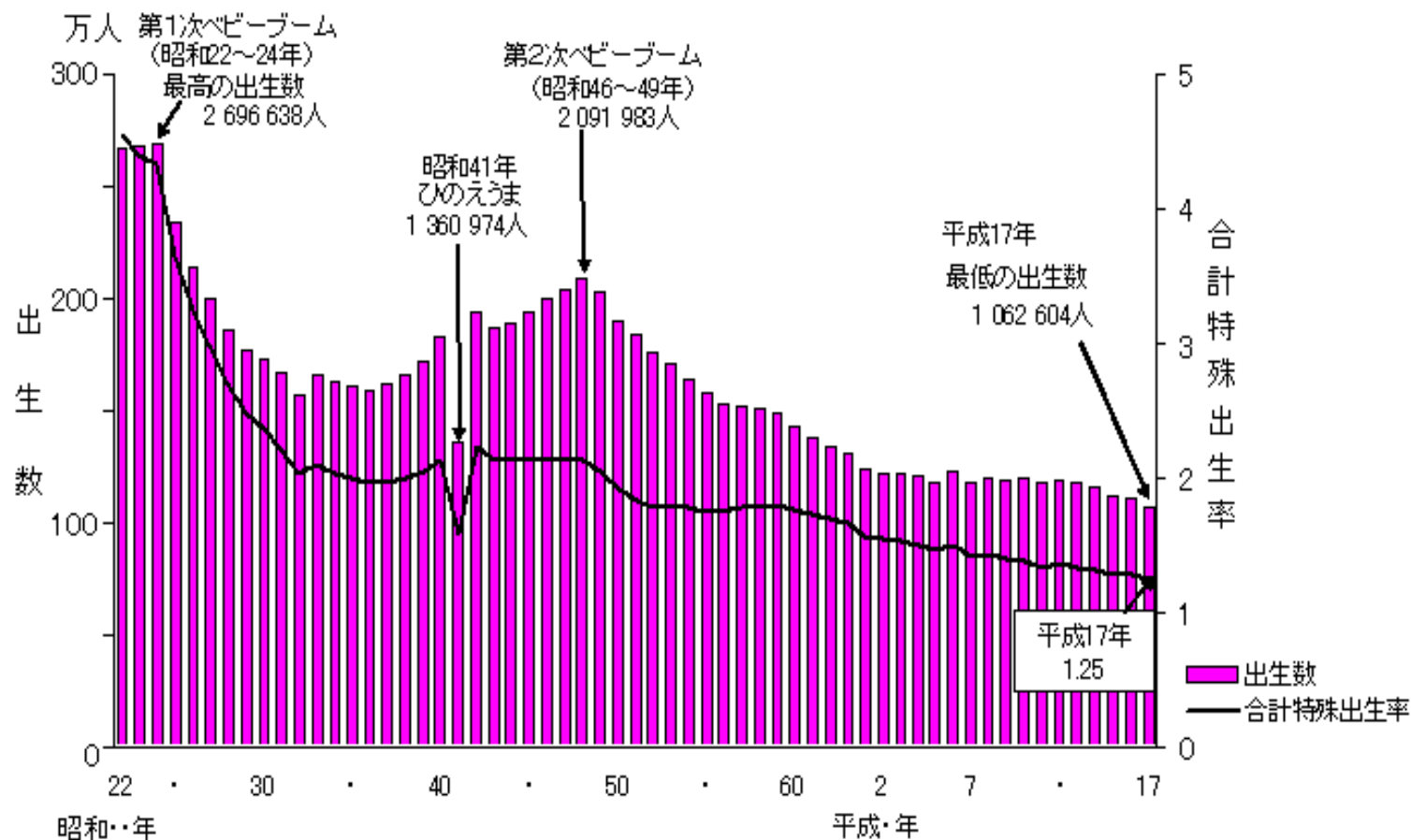
＜関係資料集＞

家庭の教育力関係資料

(1) 出生数及び合計特殊出生率の年次推移

平成17年の合計特殊出生率は過去最低を記録

出生数及び合計特殊出生率の年次推移

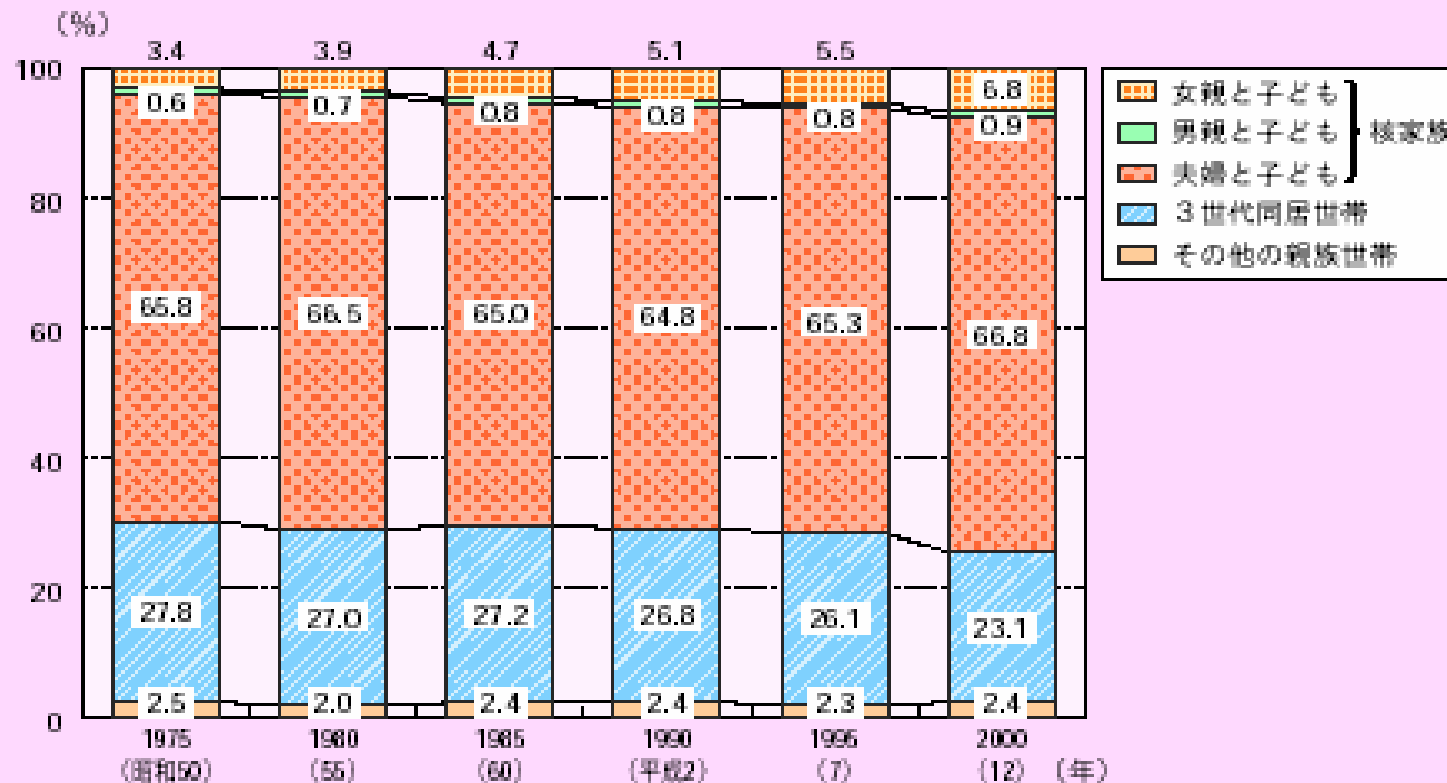


厚生労働省「人口動態統計」(平成17年)

※合計特殊出生率とは、その年次の15～49歳までの女子の年齢別出生率を合計したもので、1人の女子が仮にその年次の年齢別出生率で一生涯の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。

(2) 児童のいる世帯における世帯類型別割合の推移

ひとり親家庭の割合が増加傾向にある



資料：総務省統計局「国勢調査」より内閣府で作成

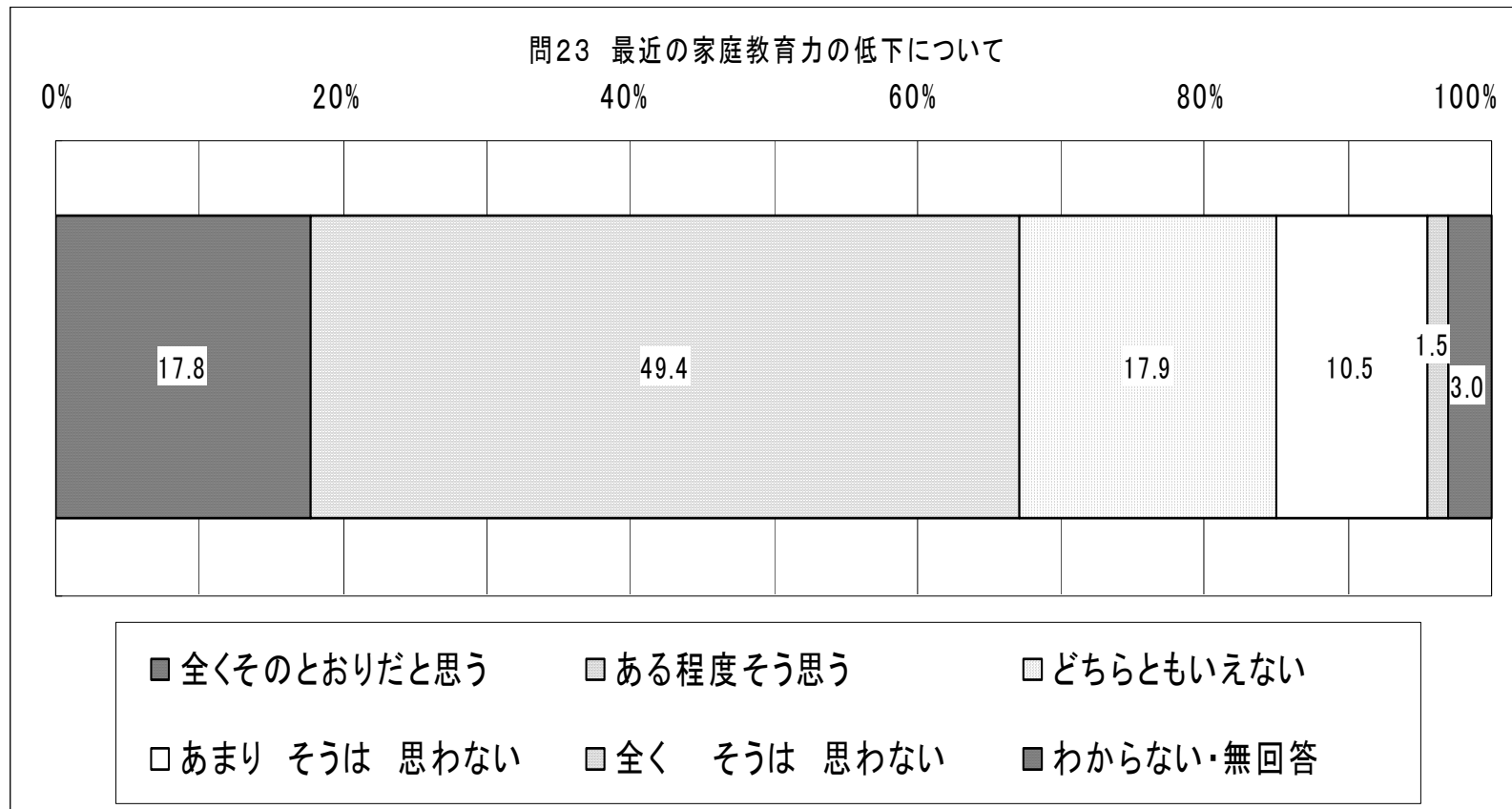
注1：児童とは、18歳未満の親族（子ども）のことである。

注2：3世代同居世帯とは、「夫婦・子どもと両親との世帯」、「夫婦・子どもと片親との世帯」、「夫婦・子ども・親と他の親族との世帯」、「夫婦・子どもと他の親族との世帯」の合計と定義する。

(3) 家庭の教育力の低下について

1) 単純集計

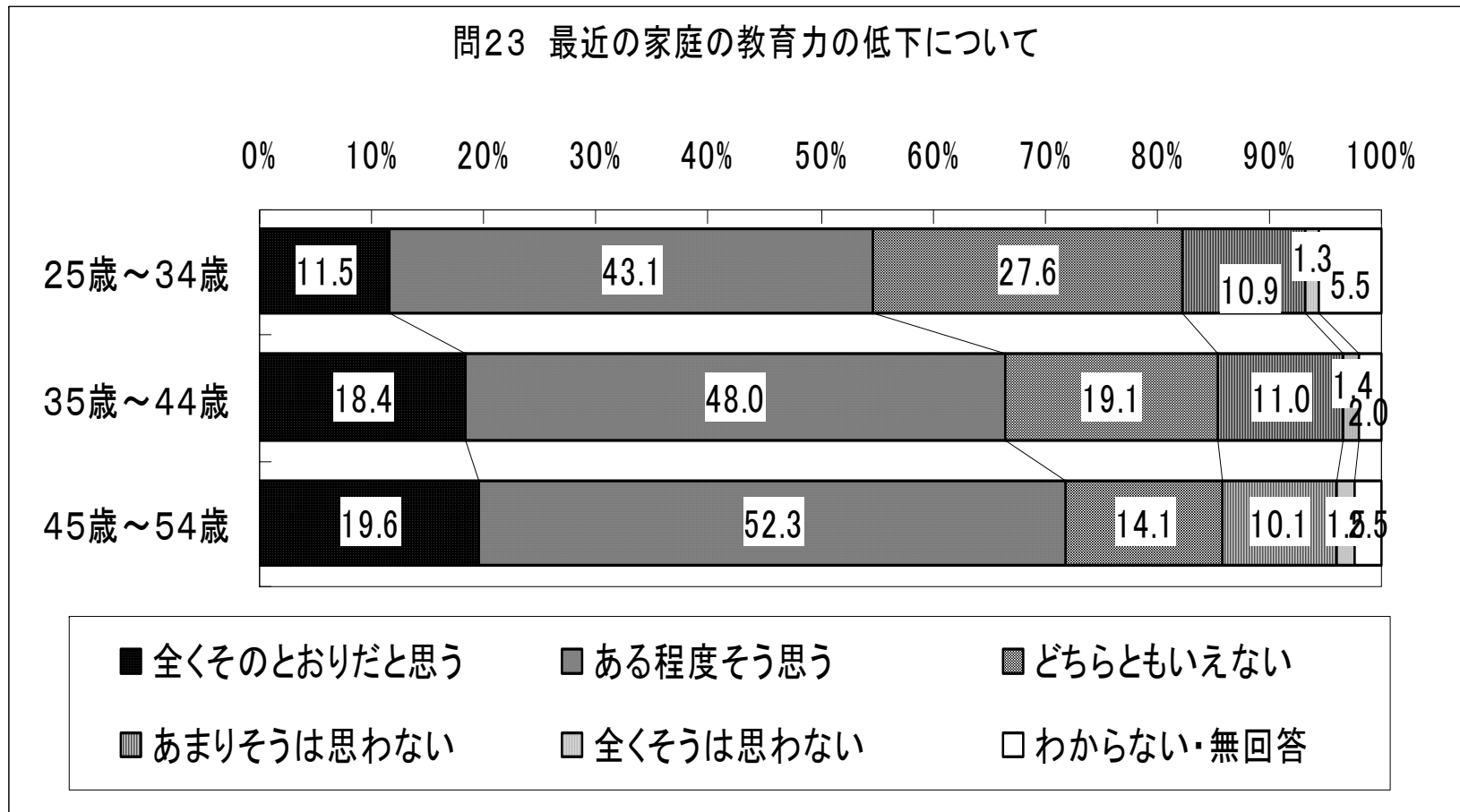
約7割の親が家庭の教育力が低下していると実感



文部科学省委託研究「家庭の教育力再生に関する調査研究」(平成13年度)
調査対象:子どもと同居する親のうち、25~34歳の男女3,859人

2) 世代別集計

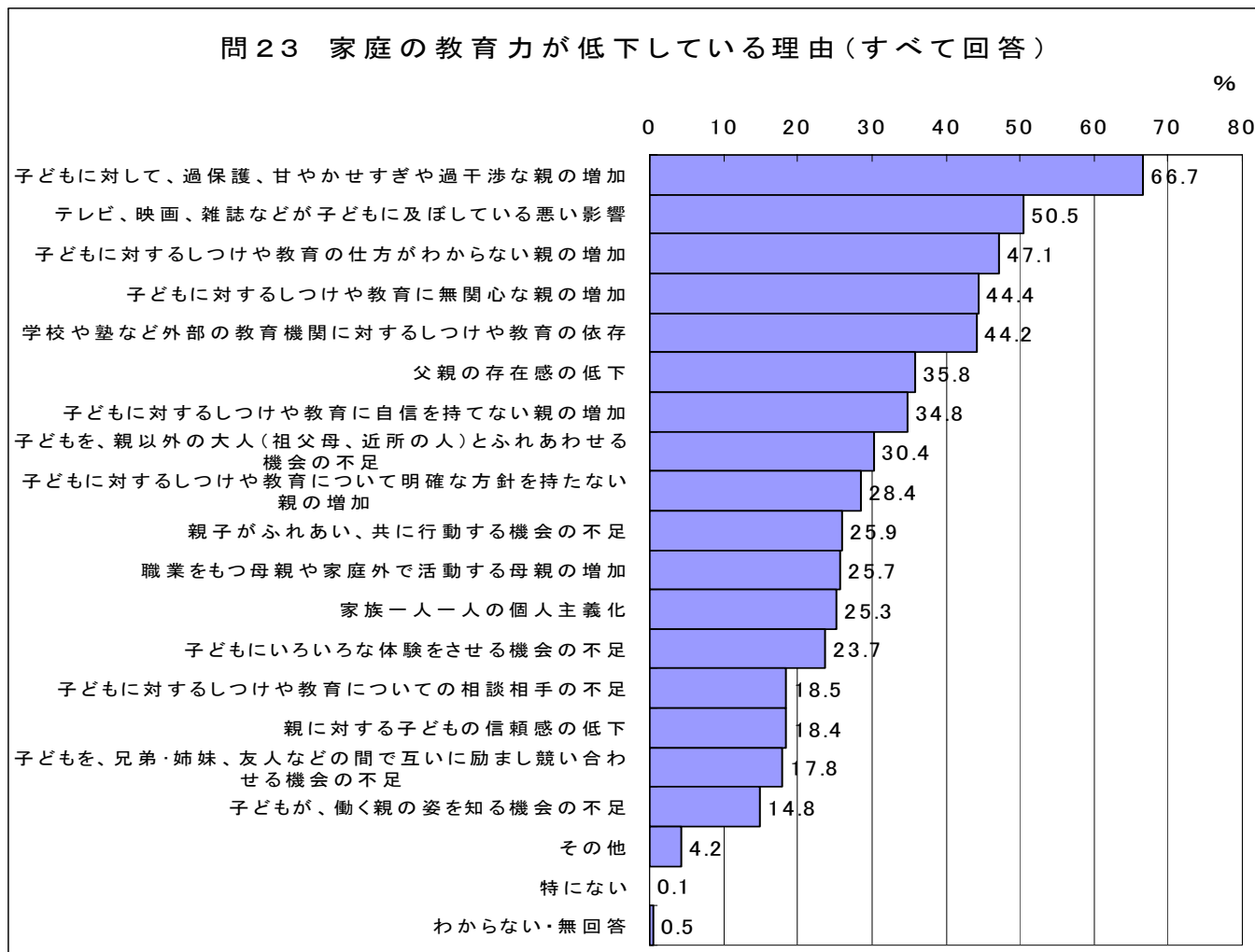
年齢の高い世代の方が家庭の教育力低下を実感する割合が多い



文部科学省委託研究「家庭の教育力再生に関する調査研究」(平成13年度)
 調査対象:子どもと同居する親のうち、25～34歳の男女3,859人

3) 家庭の教育力が低下している理由

第1位は「子どもに対して、過保護、甘やかせすぎや過干渉な親の増加」

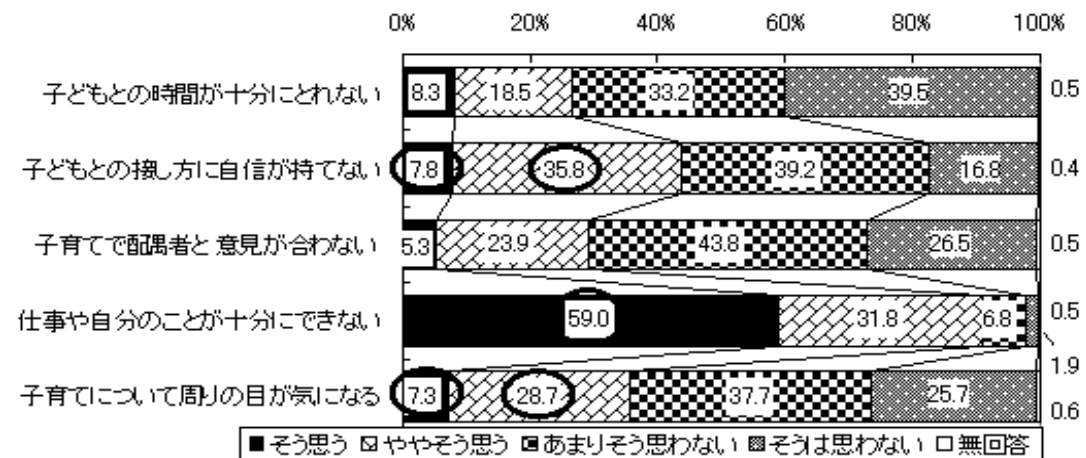


文部科学省委託研究「家庭の教育力再生に関する調査研究」(平成13年度)
 調査対象:子どもと同居する親のうち、25~34歳の男女3,859人

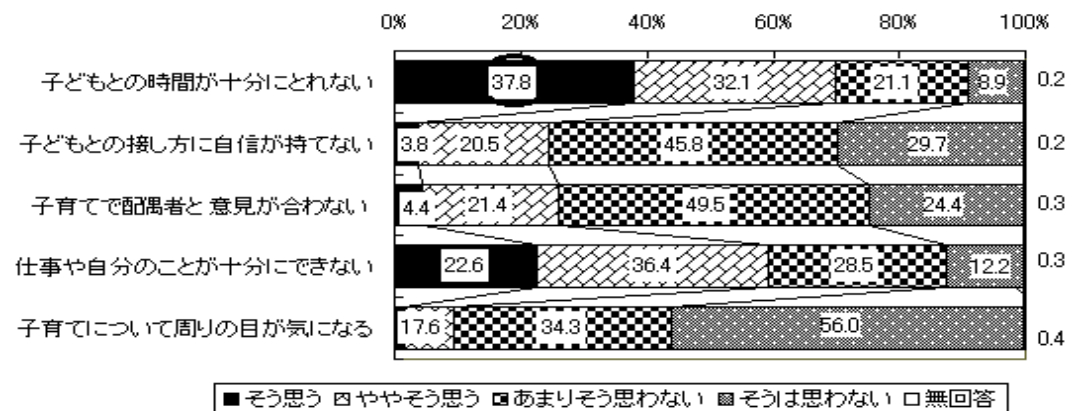
(4) 子育てをする上での不安や悩み

母親は「仕事や自分のことが十分にできない」、
父親は「子どもとの時間が十分にとれない」が第一位

【母親】



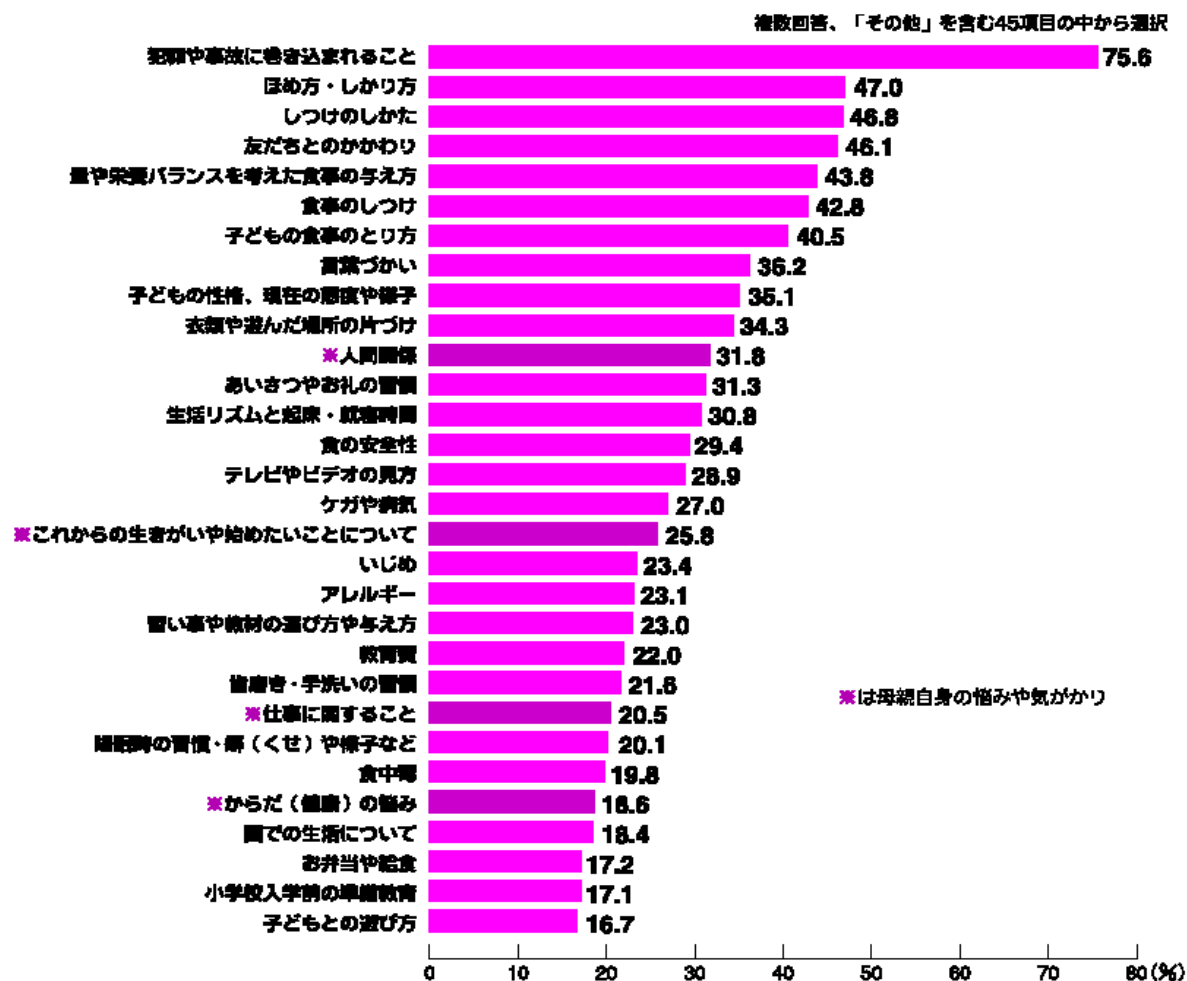
【父親】



UFJ総合研究所「子育て支援策等に関する調査研究」(平成15年度)
調査対象:未就学児を持つ2,000世帯の父母(父親2,000名、母親2,000名)

(5) 母親の気がかり

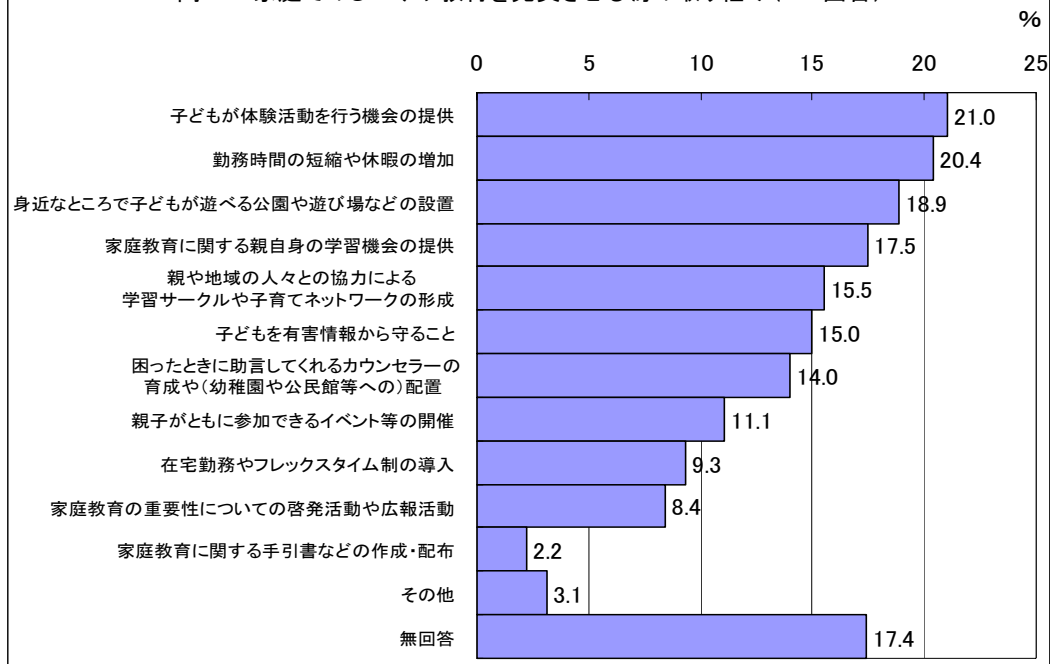
「犯罪や事故に巻き込まれること」等子どもの安全に関することをはじめとして、母親の気がかりは多様。



ベネッセ未来教育センター「第2回子育て生活基本調査」(平成15年)
調査対象: 首都圏の幼児と小学校1, 2年生を持つ保護者4, 766人

(6) 家庭でのしつけや教育を充実させるのに有効な取組

問24 家庭でのしつけや教育を充実させる為の取り組み(2つ回答)



「子どもが体験活動を行う機会の提供」が第1位

問24 家庭でのしつけや教育を充実させる為の取り組み(2A)

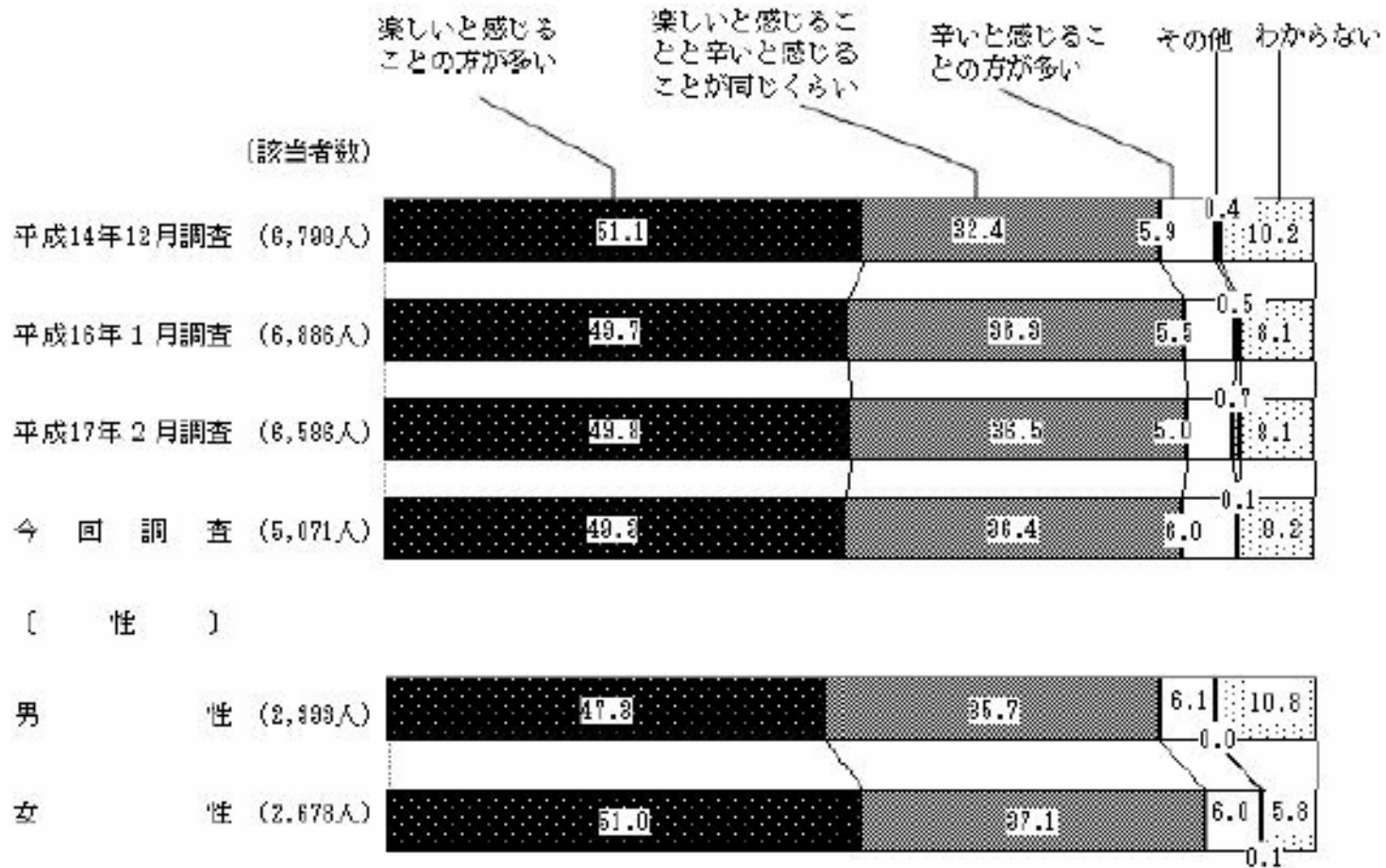
	合計(N)	勤務時間の短縮や休暇の増加	在宅勤務やフレックスタイム制導入	カウンセラーの育成や配置	家庭教育に関する手引書等の作成	子供が遊べる公園や遊び場の設置	親子がともに参加できるイベント等	子供が体験活動を行う機会の提供	家庭教育に関する親自身の学習機会	重要性について啓発活動や広報活動	学習サークルや子育てネットワーク	子供を有害情報から守ること	その他	無回答
25歳～34歳	615	30.9	13.5	12.2	2.0	30.2	15.3	19.2	11.2	3.4	13.7	14.5	3.3	11.5
35歳～44歳	1318	23.3	12.0	14.0	2.1	21.9	10.1	23.5	16.1	7.4	14.4	16.5	3.2	13.5
45歳～54歳	1896	15.1	6.2	14.7	2.3	13.3	10.2	19.9	20.4	10.9	16.7	14.2	3.1	21.8

文部科学省委託研究「家庭の教育力再生に関する調査研究」(平成13年度)
調査対象:子どもと同居する親のうち、25～34歳の男女3,859人

(7) 子育てに対する思い

1) 「子育てを楽しいと感じるか、辛いと感じるか」 内閣府「社会意識に関する世論調査」

子育てを「楽しいと感じることが多い」人は約半数(49.3%)

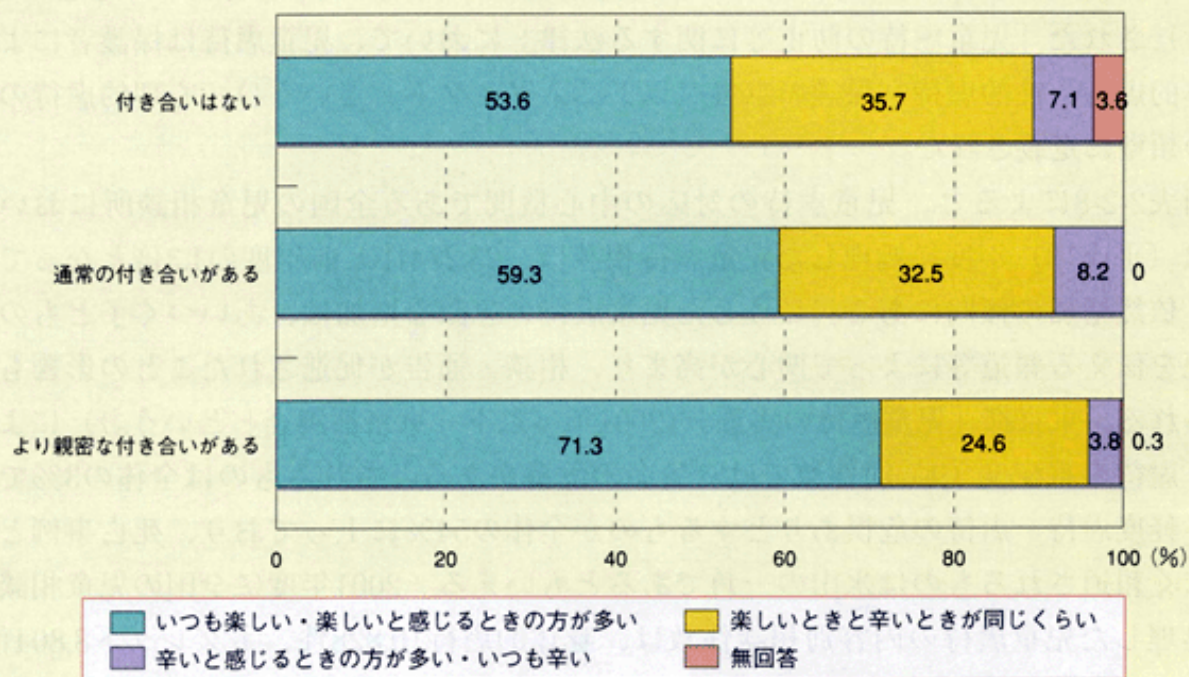


2) 「子育てを楽しんでいるか、辛いと感じるか」(子育てを通じた付き合い別)

UFJ総合研究所「子育て支援策等に関する調査研究」(平成15年度)

子育てを通じた付き合いが多いほうが「子育てを楽しんでいると感じるときが多い」傾向

図表2-2-6 子育てを通じた付き合い別母親の子育ての楽しさ



資料：(株)UFJ総合研究所「子育て支援等に関する調査研究」(2001年)

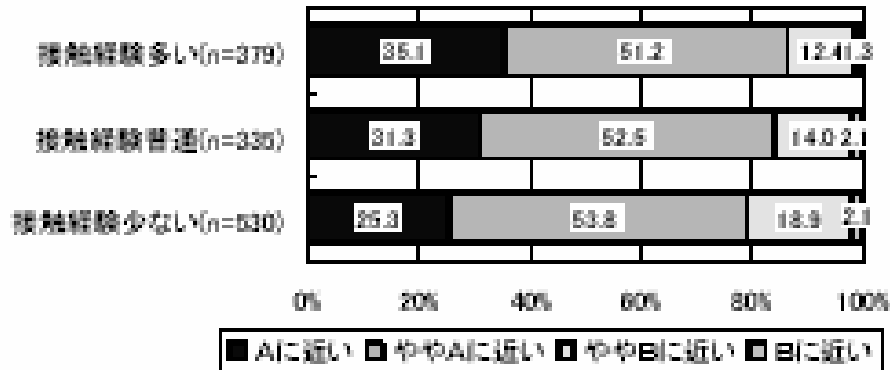
調査対象：未就学児を持つ2,000世帯の父母(父親2,000名、母親2,000名)

(8) 子育てに対するイメージ

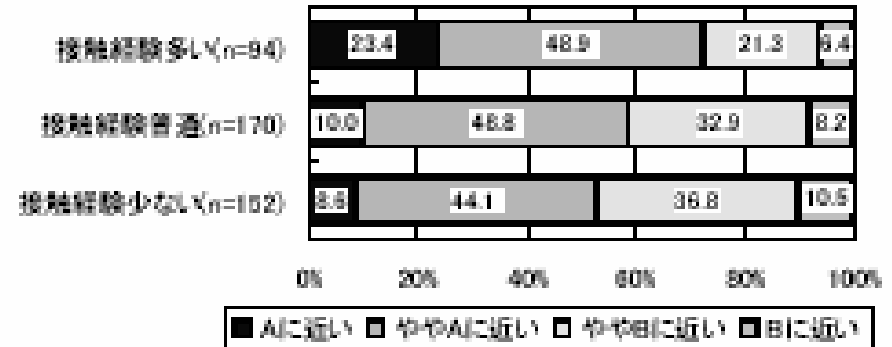
子どもとの接触経験が多い層ほどより「楽しい」イメージを持つ傾向

A:子育ては楽しい B:子育てはつらい

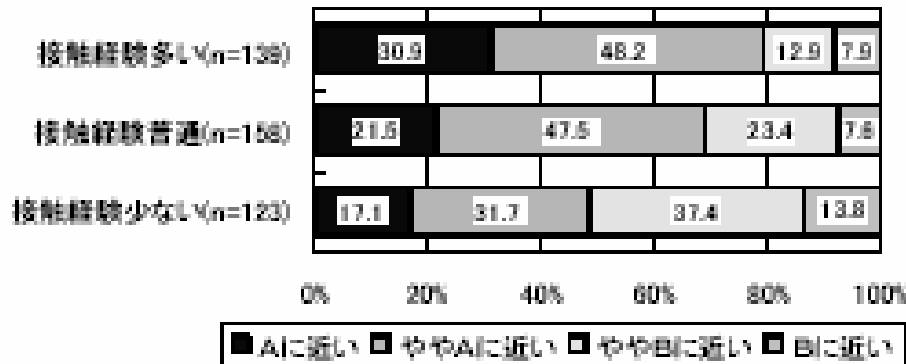
【子育て層】



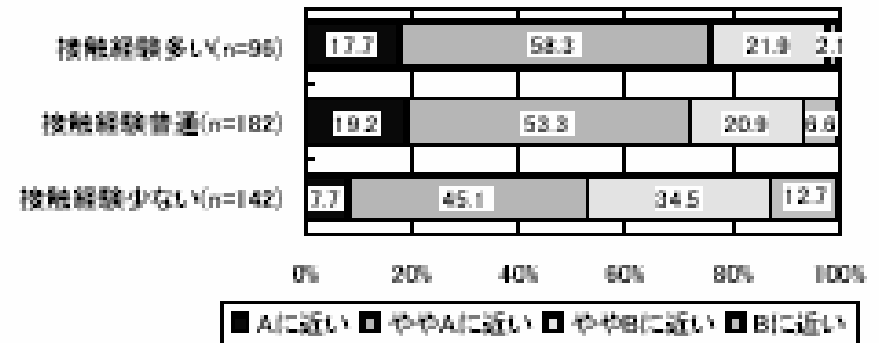
【子どものいない未婚層】



【中高生層】



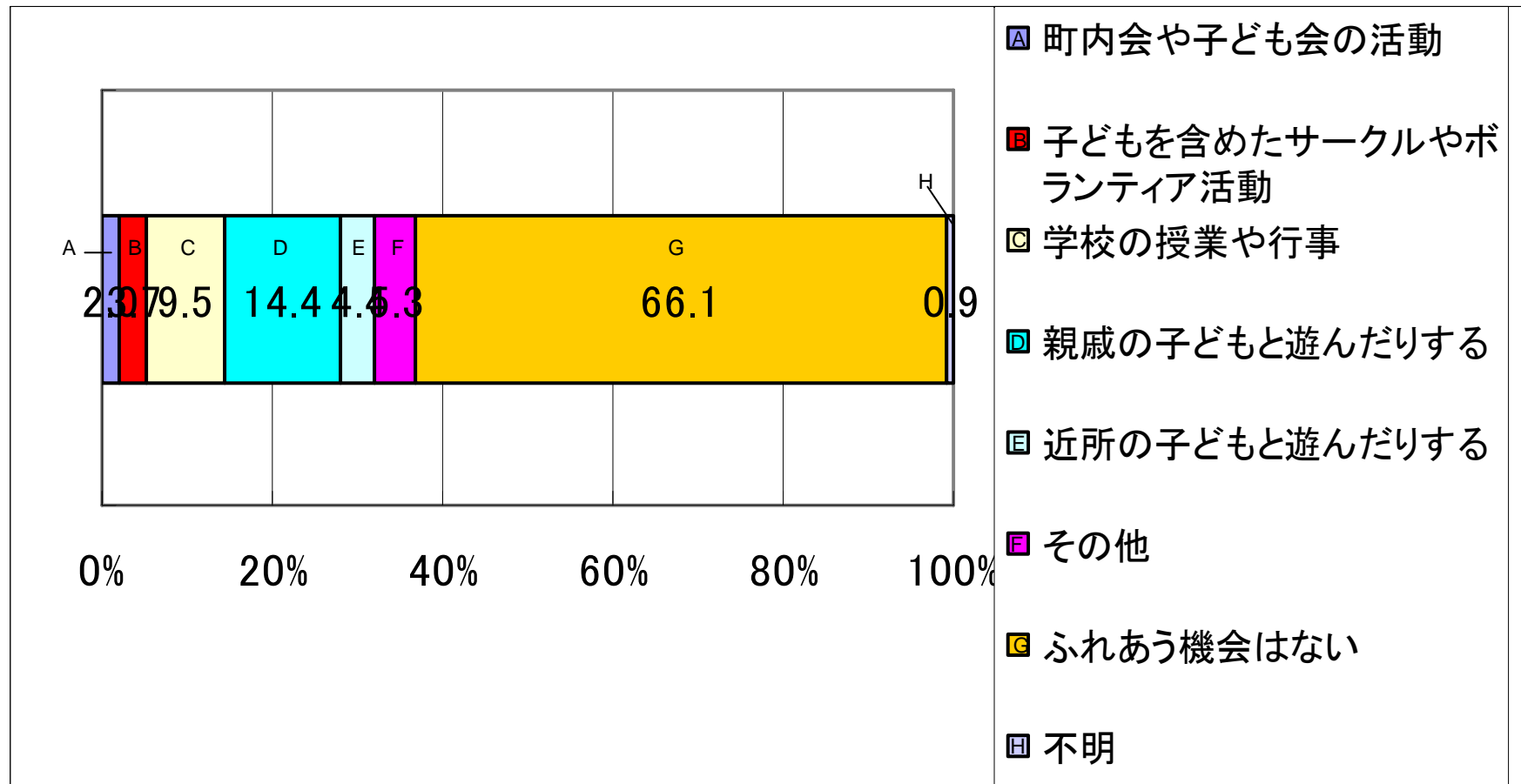
【子どものいない既婚層】



資料:厚生労働省委託調査「子育てに関する意識調査」(平成15年度)
 調査対象:子育て層1,244人(母親625人、父親619人)、子どものいない層(18歳以上の男女)836人
 中高生層(中学生・高校生の男女)420人、中高年層(50歳代・60歳代の男女)422人

(9) 小さな子どもとふれ合う機会

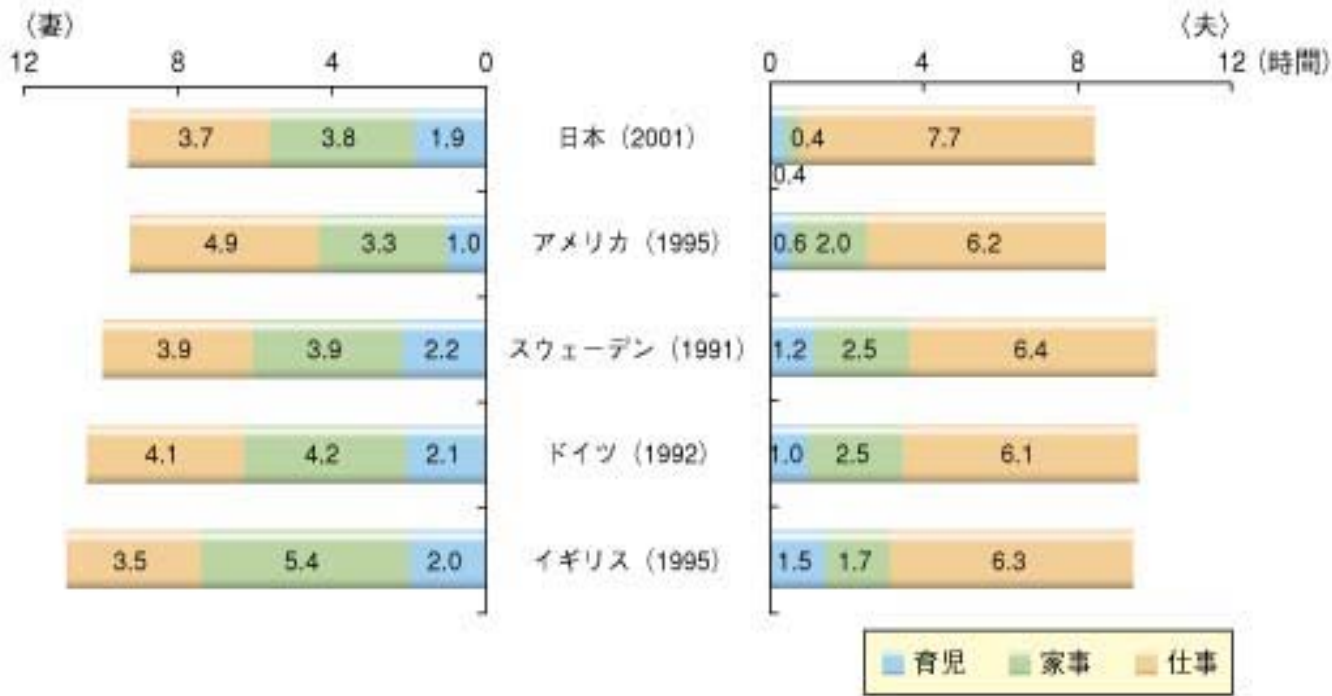
小さな子どもとふれあう機会がない中・高校生が66.1%



(10) 育児期にある夫婦の育児・家事時間

各国に比べ夫婦の育児時間の差が大きい

育児期にある夫婦の育児、家事及び仕事時間の各国比較

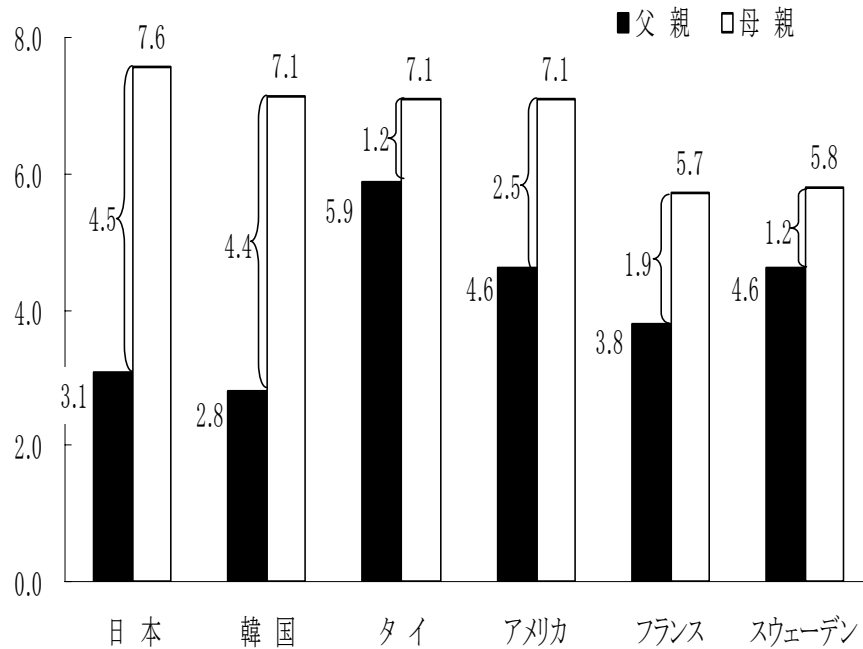


(備考) 1. OECD「Employment outlook 2001」、総務省「社会生活基本調査」(平成13年)より作成。
 2. 5歳未満(日本は6歳未満)の子供のいる夫婦の育児、家事労働及び稼働労働時間。
 3. 妻はフルタイム就業者(日本は有業者)の値、夫は全体の平均値。
 4. 「家事」は、日本以外については「Employment outlook 2001」における「その他の無償労働」。
 5. 日本については「社会生活基本調査」における「家事」、「介護・看護」及び「買い物」の合計の値であり、日本以外の「仕事」は、「Employment outlook 2001」における「稼働労働」の値。

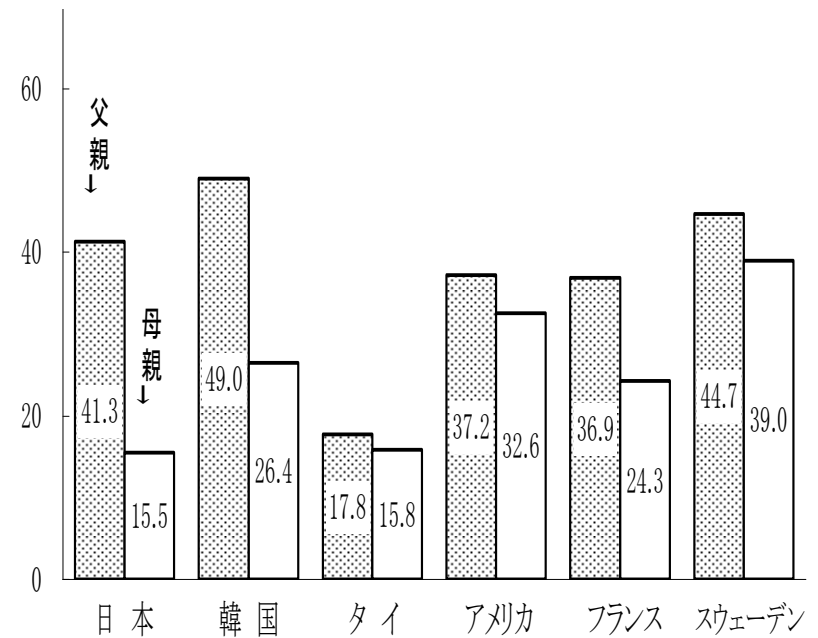
(11) 父親が子どもと接する時間

日本の父親は、1日平均3.1時間しか子どもと一緒に過ごしていない
(父親と母親の接触時間の差が4時間台と大きい)

○父親が子どもと接する時間 (国際比較)

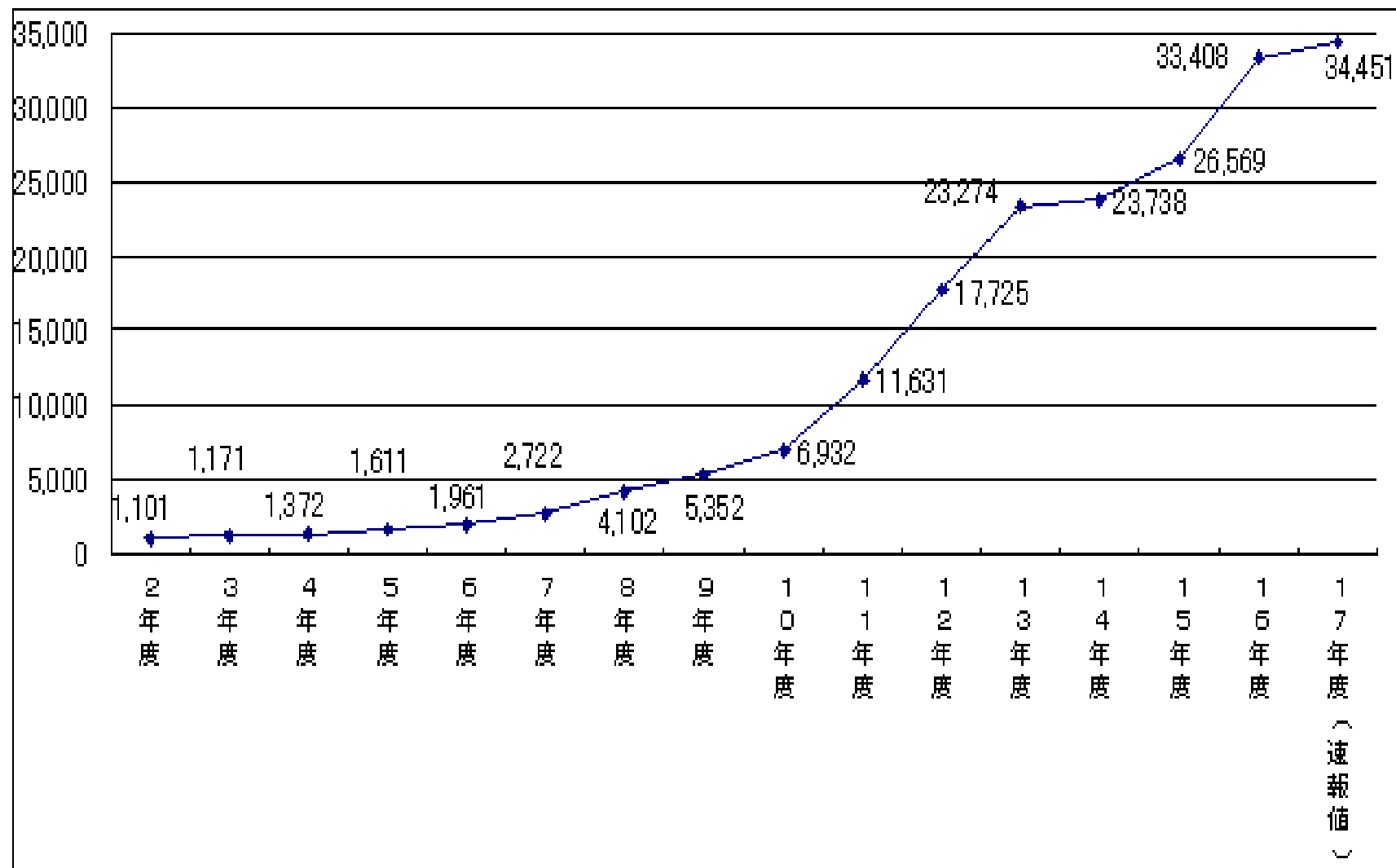


○「子どもと接する時間が短い」と考える父親の割合 (国際比較)



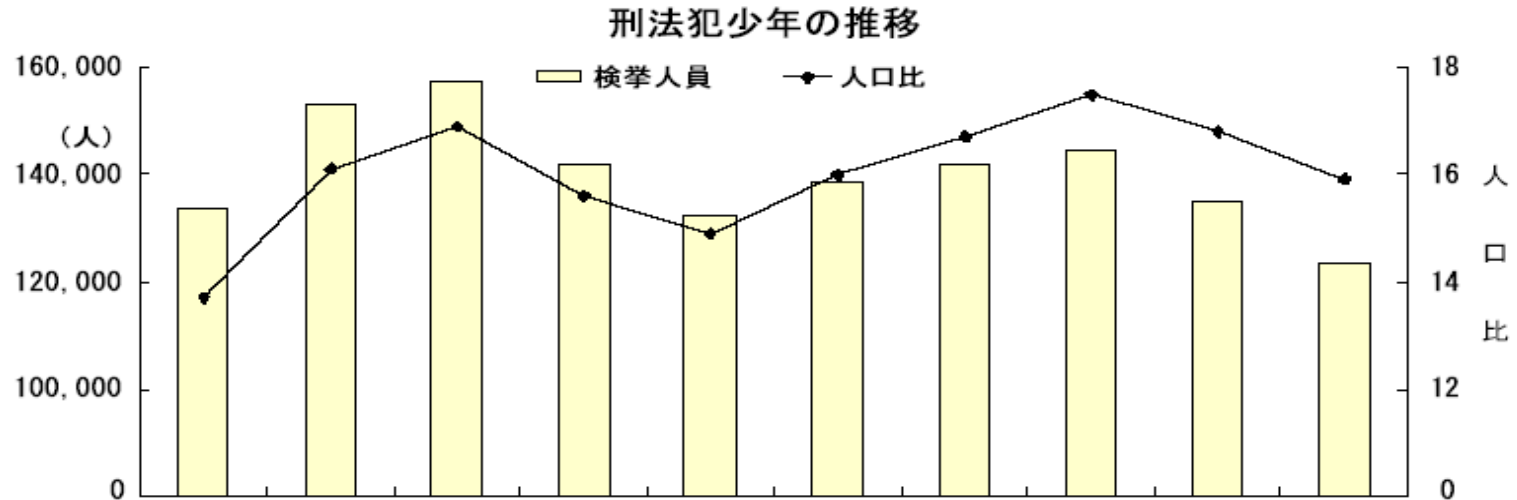
(12) 児童相談所における児童虐待相談処理件数

児童虐待相談処理件数は年々増加しており、特にこの10年で急増した。



(13) 刑法少年検挙人員の推移

刑法犯罪少年検挙人員は2年連続で減少



年次	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
検挙人員	133,581	152,825	157,385	141,721	132,336	138,654	141,775	144,404	134,847	123,715
(人口比)	13.7	16.1	16.9	15.6	14.9	16.0	16.7	17.5	16.8	15.9
凶悪犯	1,496	2,263	2,197	2,237	2,120	2,127	1,986	2,212	1,584	1,441
粗暴犯	15,568	17,981	17,321	15,930	19,691	18,416	15,954	14,356	11,439	10,458
窃盗犯	85,306	97,836	99,768	86,561	77,903	81,260	83,300	81,512	76,637	71,147
知能犯	532	628	715	561	584	526	632	784	1,240	1,160
風俗犯	458	486	434	409	429	410	347	425	344	383
その他の刑法犯	30,221	33,631	36,950	36,023	31,609	35,915	39,556	45,115	43,603	39,126
刑法犯総検挙人員に占める少年の割合	45.2%	48.7%	48.5%	44.9%	42.7%	42.6%	40.8%	38.0%	34.7%	32.0%

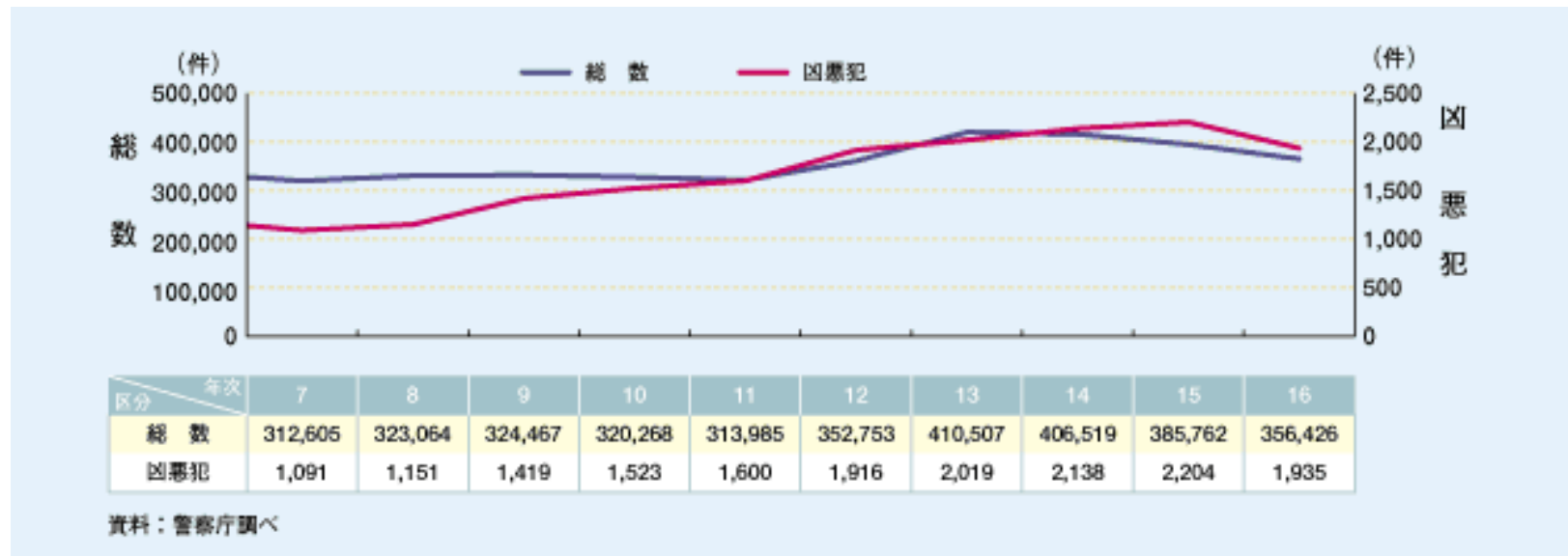
注)「刑法犯罪少年」...刑法等に規定する罪を犯した14歳以上20歳未満の者

資料:警察庁「少年非行等の概要」(平成18年)

(14) 少年が被害者となる刑法犯の現状

平成16年中に少年が被害者となった刑法犯の認知件数は、前年に比べ2万9,336件(7.6%)減少したものの、依然として深刻な状況にある。

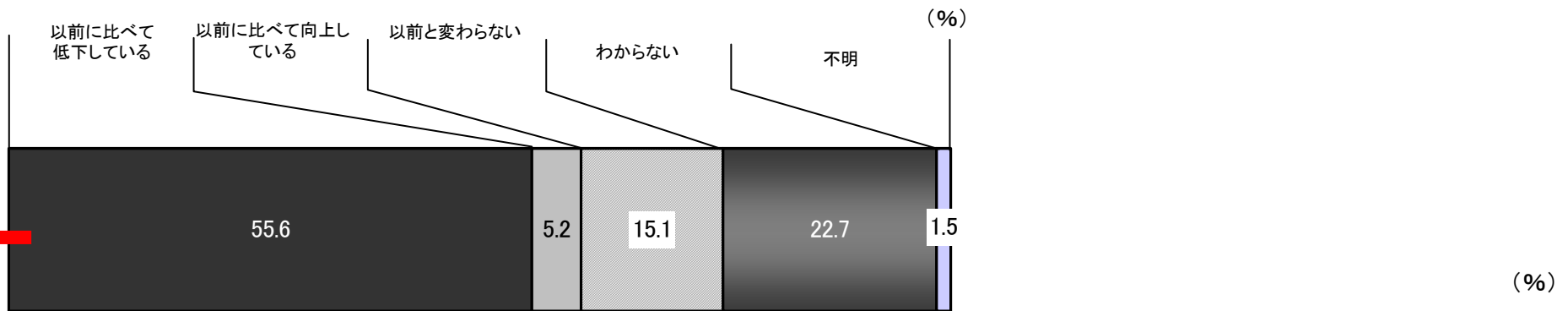
少年の刑法犯被害認知件数の推移(平成7～16年)



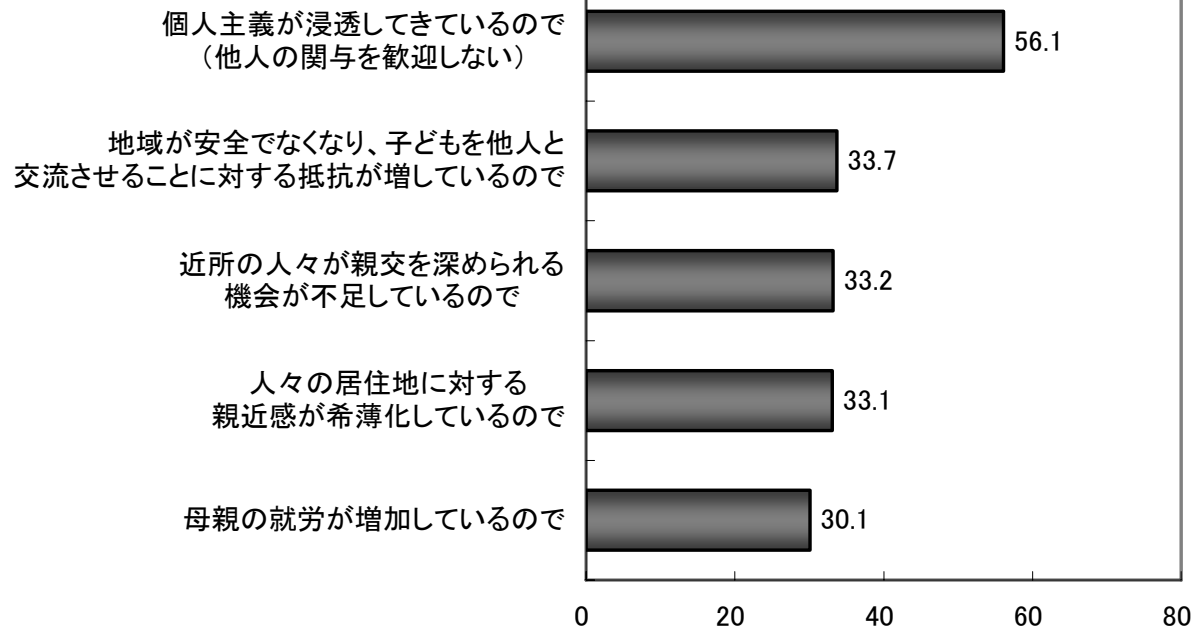
地域の教育力関係資料

(1)地域の教育力に関する意識

保護者に「地域の教育力」を自身の子ども時代と比較してもらったところ、過半数が「以前に比べて低下している」(55.6%)と回答している。一方、「以前に比べて向上している」(5.2%)、「以前と変わらない」(15.1%)は低い割合にとどまっている。



その理由



(出典)平成18年「地域の教育力に関する実態調査」

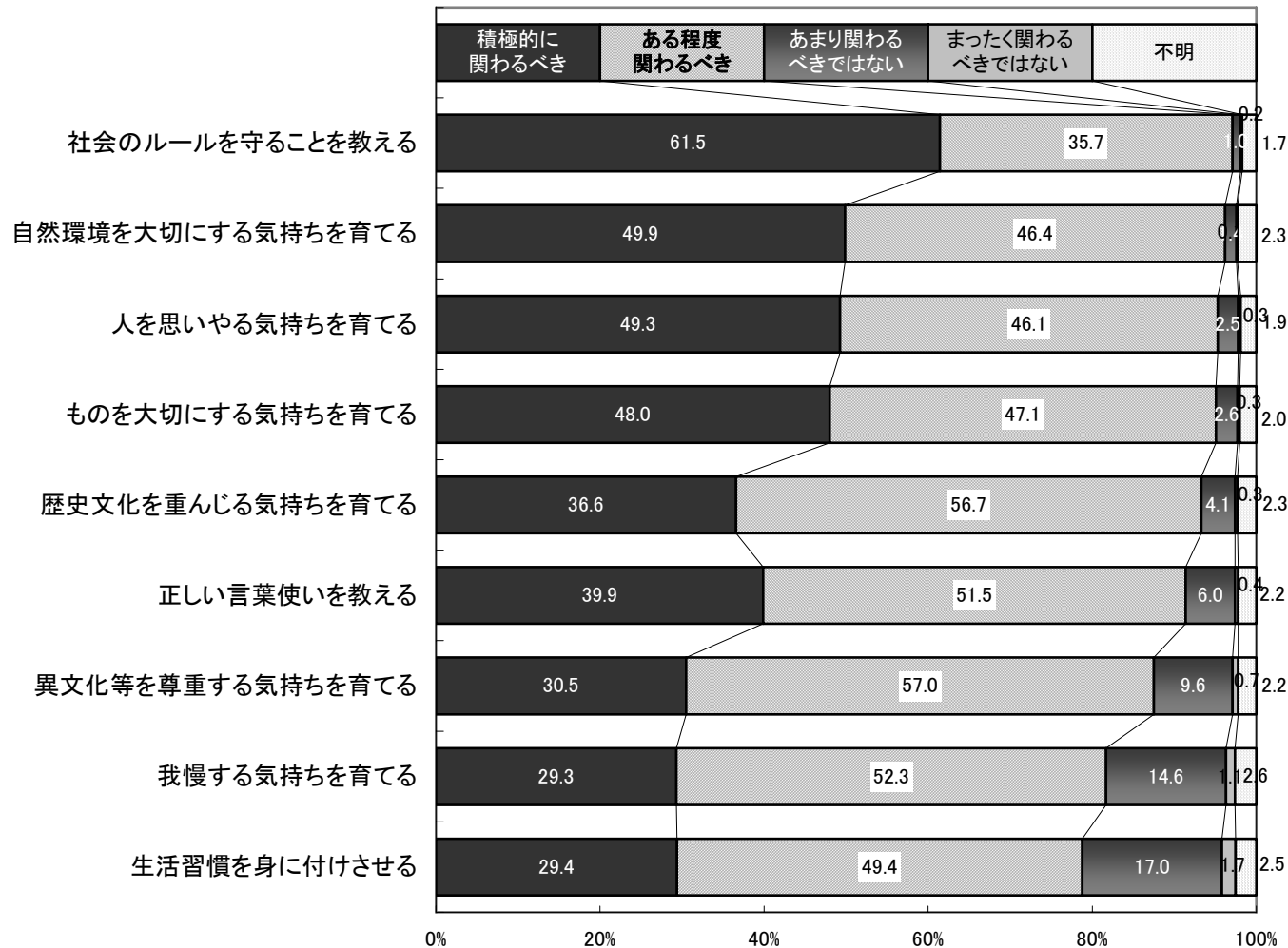
※14項目の中から3つまで選択。上記グラフは上位5項目の回答率。

(2) 地域が果たすべき役割

「社会のルールを守ることを教える」について「積極的に関わるべき」が6割以上と最も高い。
 → 保護者は、子どもに対して社会規範を教えることを重視していることがうかがえる。

子ども(小・中学生)を育てる上で地域が果たすべき役割

(%)



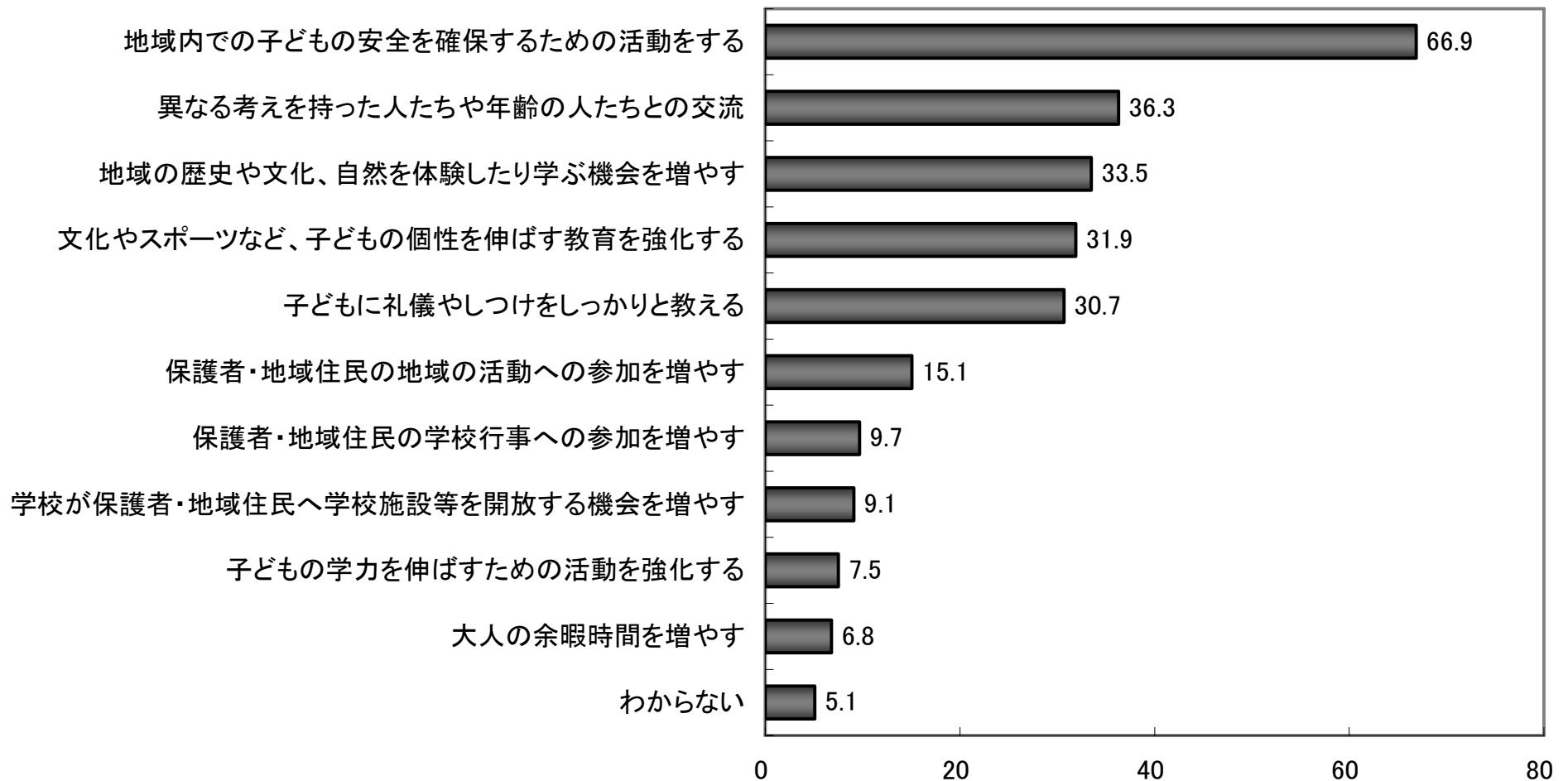
(出典)平成18年「地域の教育力に関する実態調査」

(3) 地域で力を入れるべきこと

「地域内での子どもの安全を確保するための活動をする」(約7割)と最も高い。
→ 保護者は、子どもの安全確保に対する関心はきわめて高い。

子どもが健やかに育まれるために地域で力を入れるべきこと

(%)



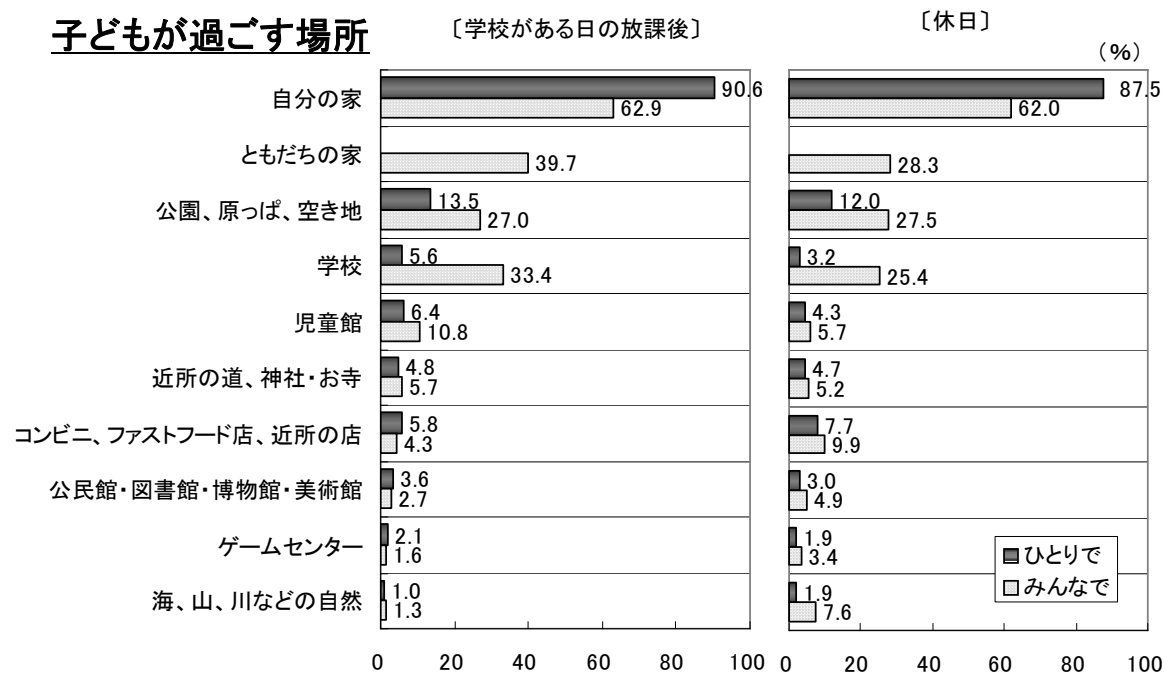
※上記グラフの項目の中から多いものを3つまで選択。

(出典)平成18年「地域の教育力に関する実態調査」(調査時期は平成17年10月～11月中旬)

(4)子どもが過ごす場所

ひとりで過ごす場所は、平日・土日とも「自分の家」が約9割。
 みんなで過ごす場所は、「家」は約6割、次いで「公園・原っぱ・空き地」「学校」が約3割。
 → ひとりの時もみんなで過ごす時も子どもの活動は屋内中心。

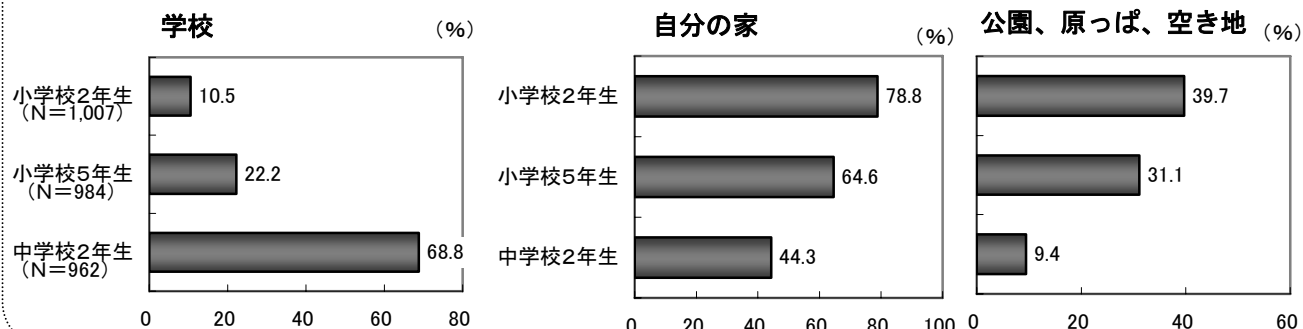
子どもが過ごす場所



学年別の放課後に過ごす場所の傾向は、高学年ほど学校で過ごす割合が高く、低学年ほど自分の家や地域内(公園・原っぱ・空き地)で過ごす割合が高い。

※上記グラフの項目の中から多いものを3つまで選択。

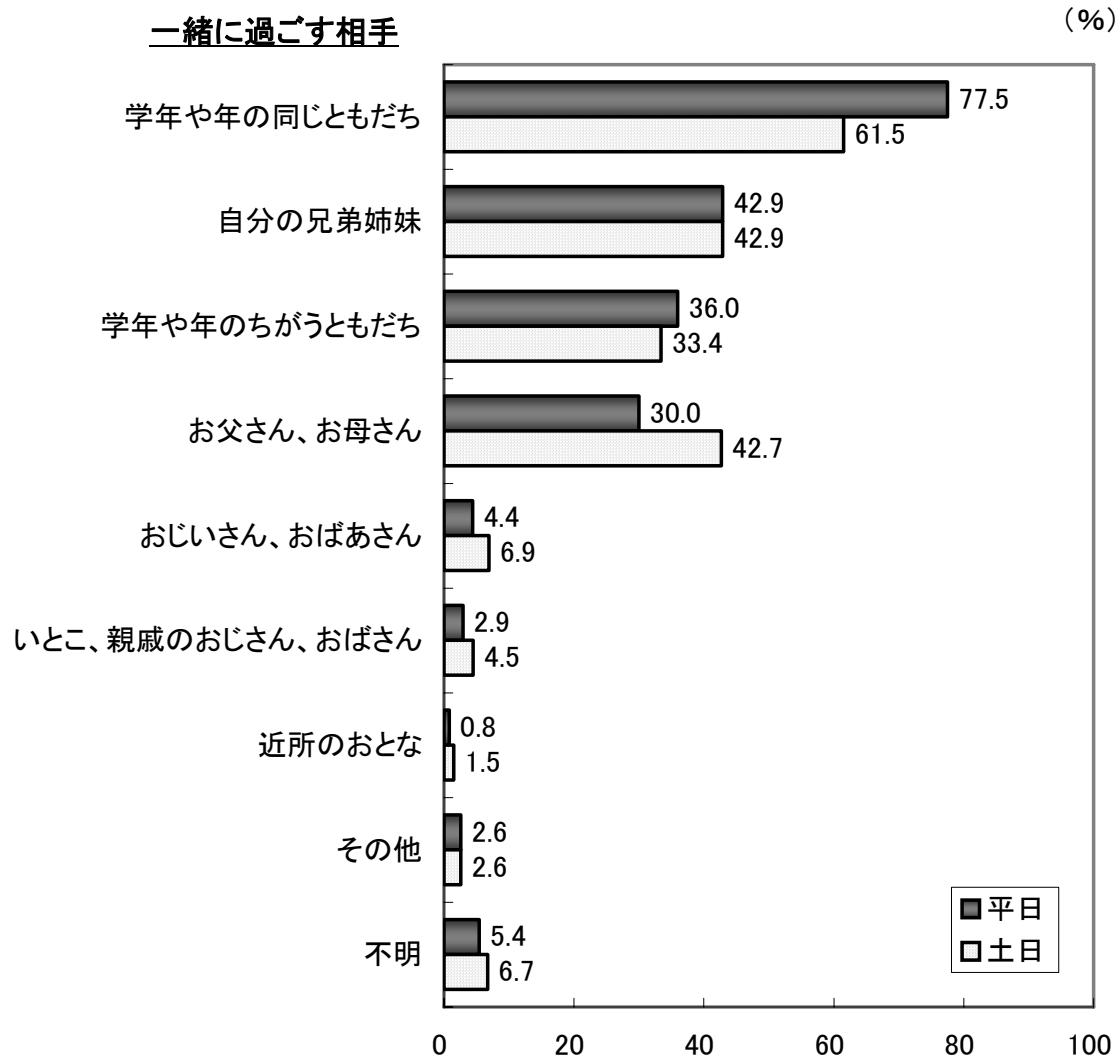
学年によって回答割合に大きな違いが出た場所 (学校がある日の放課後)



(出典)平成18年「地域の教育力に関する実態調査」

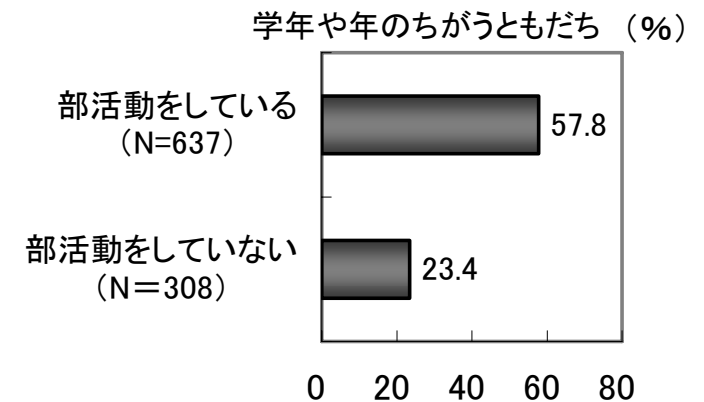
(5) 子どもの異年齢とのふれあい状況

放課後、土日ともに「学年や年の同じともだち」が6～7割と最も高い。「学年や年のちがうともだち」は3～4割。 → 子どもは同年齢の友達や家族以外の異世代との交流機会が少ない。



学年別に見ると、学年が上がるにつれ、交流範囲が家族から学校の友達に以降している。また、中学生については、部活動をしている方が「学年や年のちがうともだち」との交流が多い。

部活動(中2)の有無のクロス



(出典)平成18年「地域の教育力に関する実態調査」 ※上記グラフの項目の中から多いものを3つまで選択。

(6) 過去1年間の地域活動への参加率

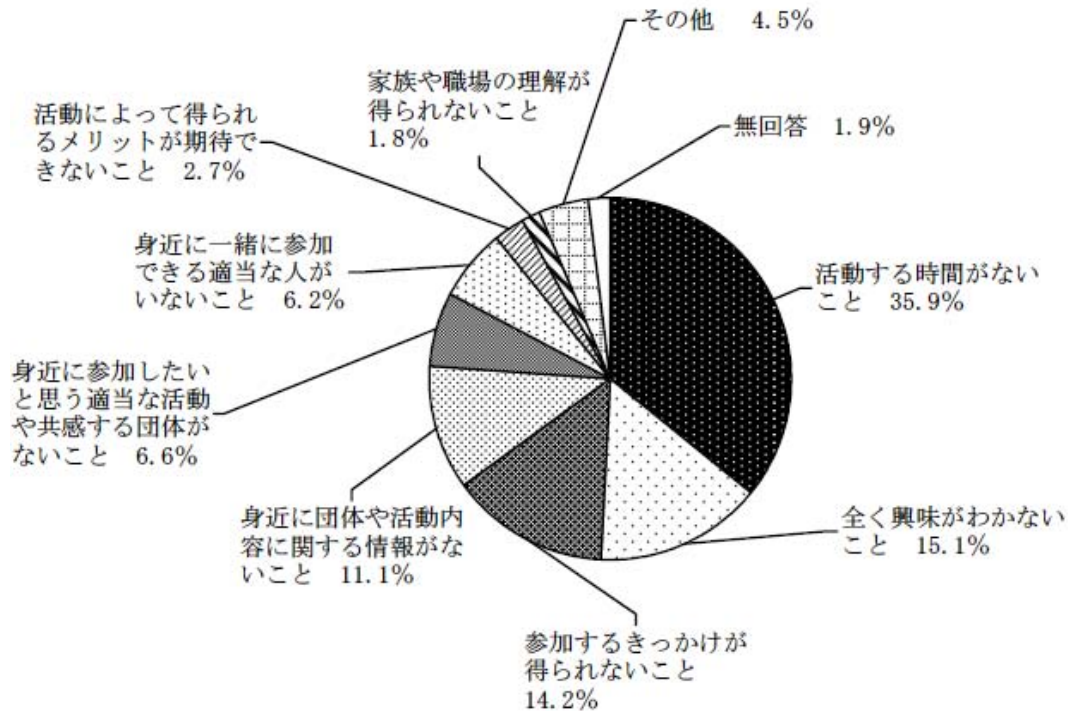
男女とも10・20代の「地域活動参加なし」が約6割。(教育・文化については、男性40代と女性30・40代が他の年代に比べ相対的に高く、約2～3割。)

→ 教育を含め、様々な地域活動へ参加している人の割合は、各分野とも総じて低い割合にとどまっている。

	N	地域活動(趣味)	地域活動(健康・スポーツ)	地域活動(教育・文化)	地域活動(環境美化)	地域活動(交通安全)	地域活動(防犯・防災)	地域活動(福祉・保健)	地域活動(祭りなど催し物)	その他	地域活動参加なし
Total	10060	7.2%	22.0%	11.1%	14.5%	5.1%	7.4%	5.5%	30.6%	2.3%	43.4%
男性10代	270	1.1%	21.1%	3.7%	4.1%	1.9%	1.9%	1.5%	22.6%	0.0%	56.7%
男性20代	561	3.7%	12.1%	3.6%	5.3%	1.1%	4.5%	2.1%	16.2%	1.4%	66.5%
男性30代	752	1.7%	17.6%	9.6%	9.8%	2.8%	7.0%	1.6%	27.5%	1.2%	52.8%
男性40代	898	4.3%	28.5%	19.0%	17.5%	6.2%	10.5%	2.9%	34.3%	2.1%	37.2%
男性50代	1071	4.3%	22.0%	7.2%	21.8%	6.6%	11.5%	4.7%	33.5%	2.6%	41.4%
男性60代	1086	10.9%	25.9%	4.7%	22.1%	8.7%	12.2%	7.2%	29.7%	3.9%	37.9%
女性10代	255	2.0%	12.2%	3.9%	4.7%	1.2%	2.4%	3.9%	28.6%	0.4%	59.6%
女性20代	691	2.3%	9.1%	5.6%	5.2%	1.0%	1.2%	3.0%	21.3%	0.4%	64.5%
女性30代	1092	5.2%	21.0%	26.7%	10.9%	6.5%	4.5%	2.6%	38.6%	1.5%	38.7%
女性40代	1091	9.4%	25.0%	22.4%	17.1%	8.5%	6.6%	5.2%	37.5%	2.2%	32.6%
女性50代	1241	12.7%	24.3%	6.0%	15.5%	2.6%	7.7%	8.9%	30.3%	3.0%	39.4%
女性60代	1052	14.3%	27.6%	5.6%	16.0%	5.0%	7.6%	14.3%	28.8%	4.2%	37.1%

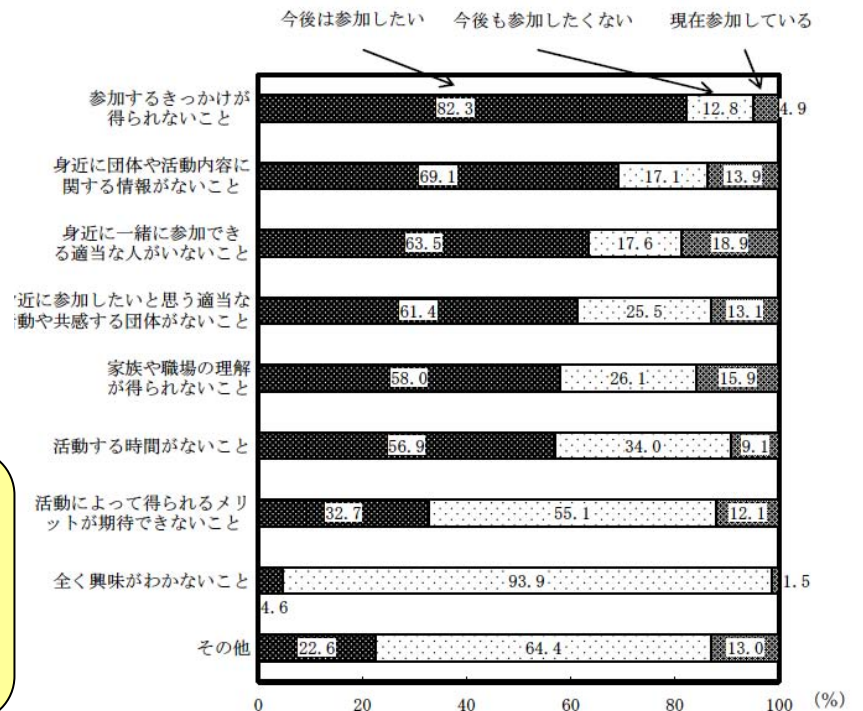
(7) 地域の活動などへの参加を妨げる要因

地域の活動への参加を妨げる要因としては、仕事等のために時間がないこと(約36%)のほかに、参加するきっかけが得られないこと(約14%)や、情報がないこと(約11%)などを挙げる人が多い。



参加を妨げる要因として「参加するきっかけが得られないこと」や「情報がないこと」を挙げている人の中には、他の要因を挙げた人に比べ、今後参加したいという希望を持っている人が多い、これらの者は条件が整えば参加する可能性が相当程度あるものと考えられる。

地域の活動などへの参加に関する今後の意向 (参加を妨げる要因別)



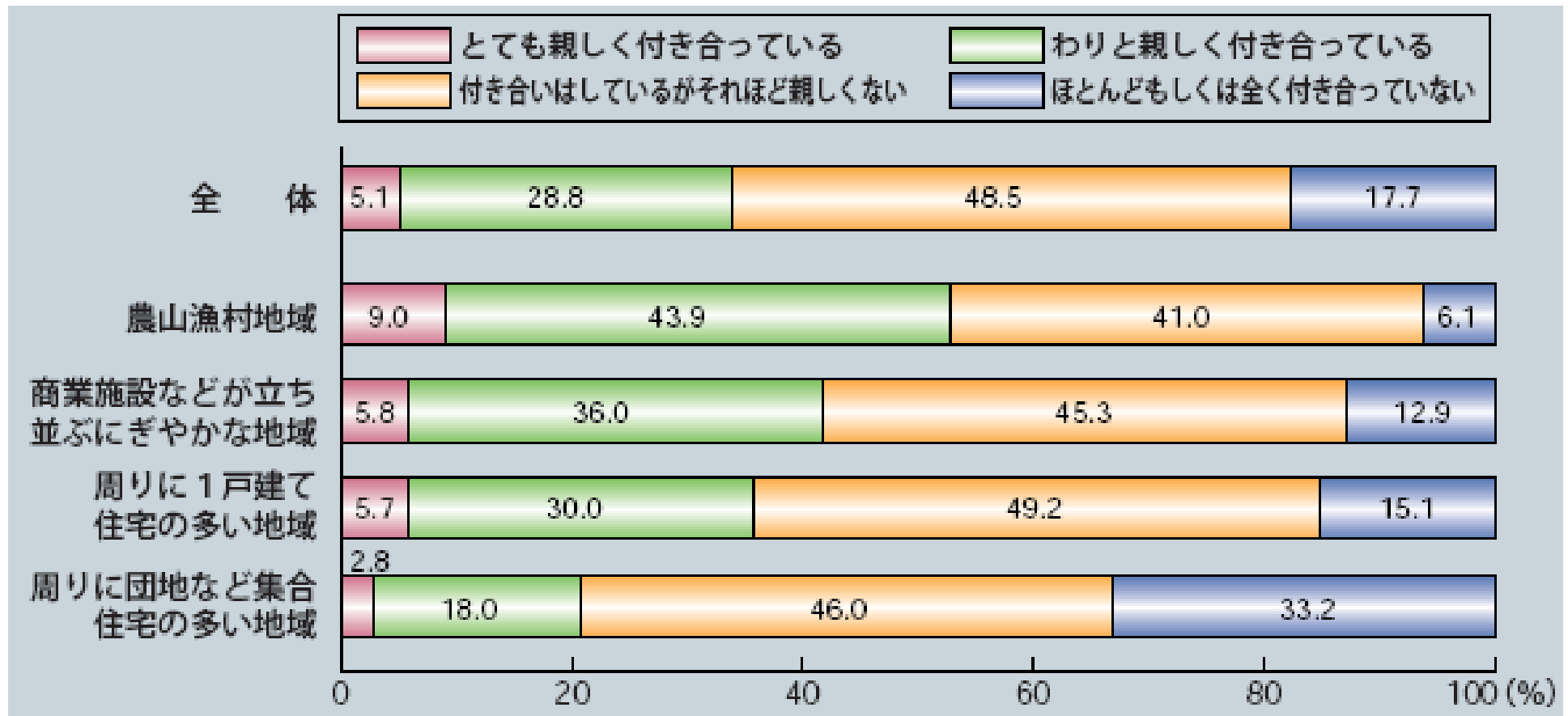
(出典)内閣府「平成15年度 国民生活選好度調査」

※有効回答者数: 全国の15~79歳までの男女3,908人

(8)現在の近所付き合いの程度(地域別)

「とても親しく付き合っている」「わりと親しく付き合っている」を合わせると、「農産漁村地域」では約5割であるが、「周りに団地など集合住宅の多い地域」では約2割となっている。

→ 地域における人間関係については、農村部と都市部とでは状況が異なっていることから、このような地域の特性等を踏まえた柔軟な取組が必要となっている。



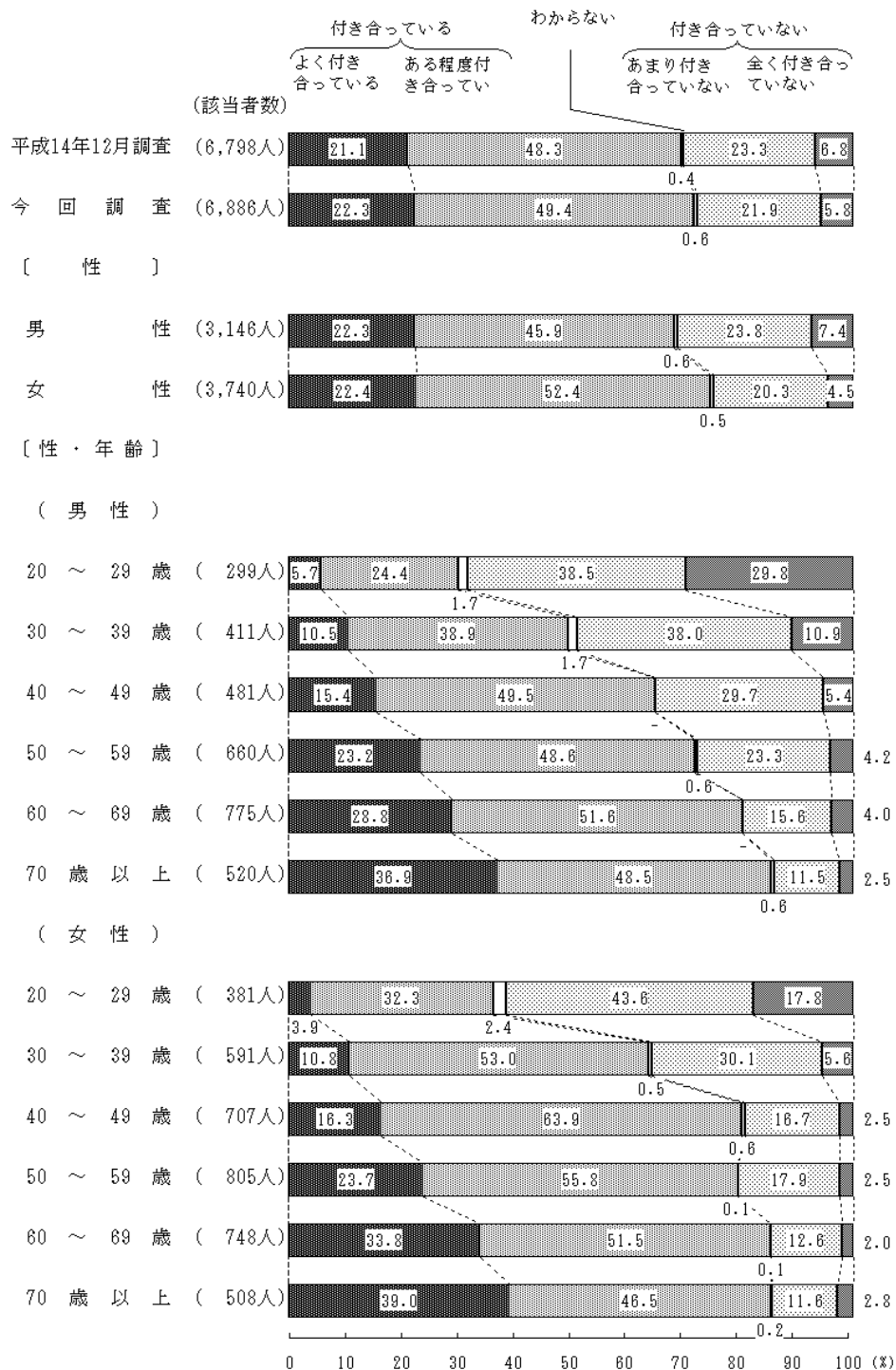
(9) 現在の地域での付き合いの程度

○都市規模別に見ると、「付き合っている」⇒小都市、町村が高い
「付き合っていない」⇒大都市、中都市が高い。

○性・年齢別に見ると、

「付き合っている」⇒男性の60歳代、70歳以上、女性の40歳代から70歳以上が高い。

「付き合っていない」⇒男性の20歳代から40歳代で、女性の20歳代、30歳代が高い。



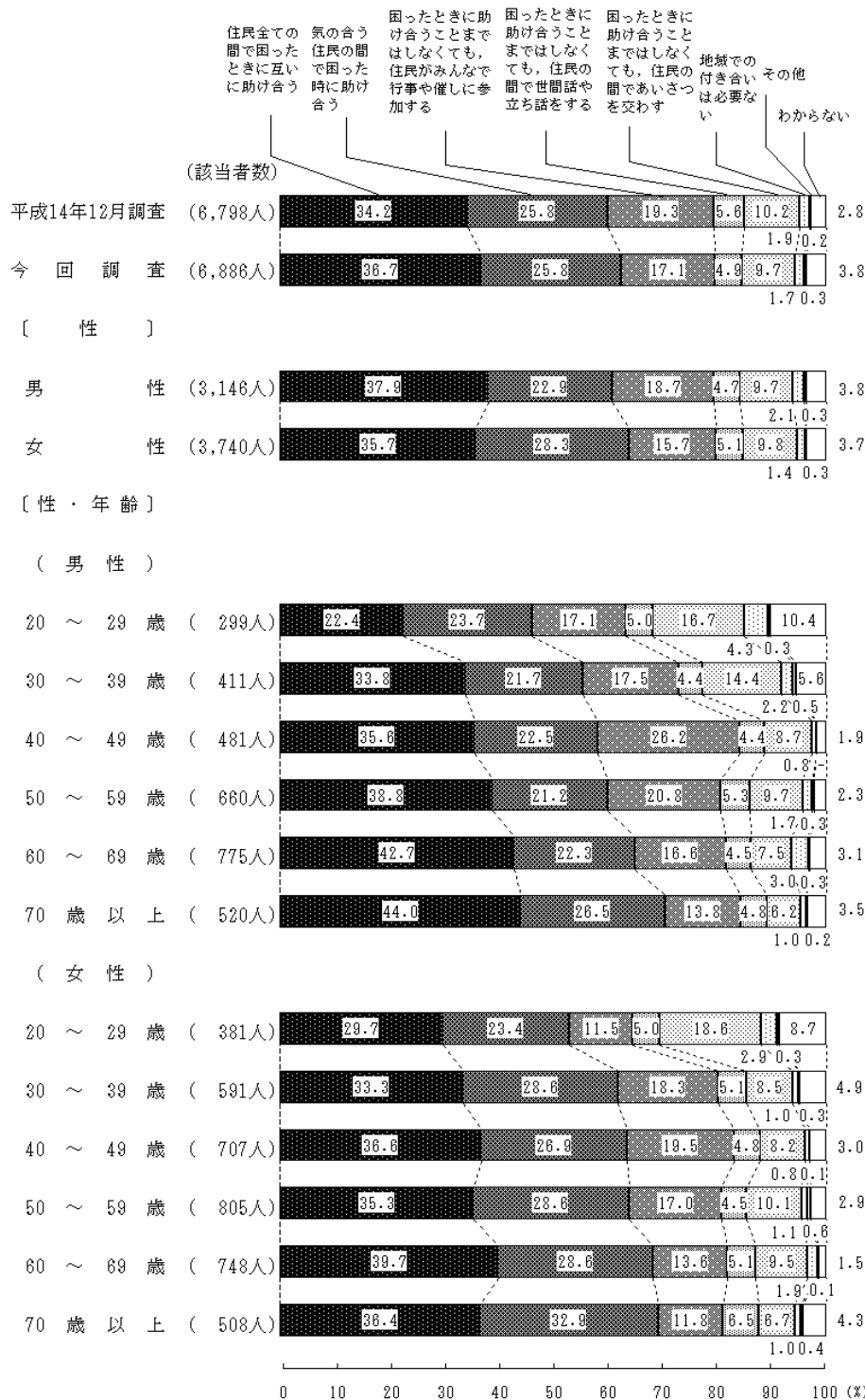
(出典) 社会意識に関する世論調査(内閣府)(平成16年1月)

(10) 望ましい地域での付き合いの程度

○都市規模別 「住民全ての間で困ったときに互いに助け合う」 ⇒ 町村が高い。

○性別 「気の合う住民の間で困ったときに助け合う」 ⇒ 女性が高い。

「困ったときに助け合うことまではしなくても、住民がみんなで行事や催しに参加する」 ⇒ 男性が高い。



(出典) 社会意識に関する世論調査(内閣府)(平成16年1月)

(11)「地域子ども教室推進事業」の評価について

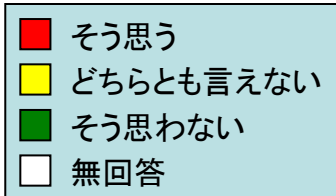
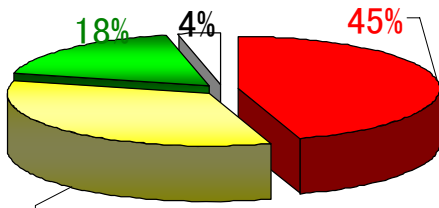
～平成16年度「地域子ども教室推進事業」実施状況調査報告書より～

(1) 地域子ども教室に参加した「子ども」へのアンケート

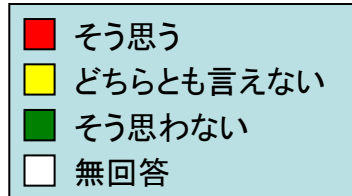
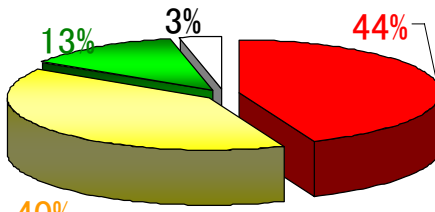
n=3307

あなたは、地域子ども教室に来る前と比べて、いつもの生活の中で何か変わったことはありますか？

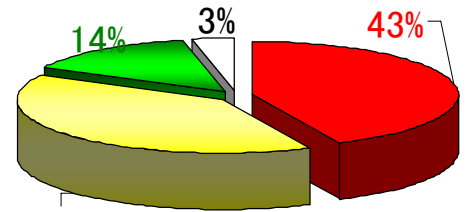
教室のことを家の人と話したりするようになった



学校に行くのが楽しくなった



地域の大人の人と挨拶をしたり話をしたりするようになった



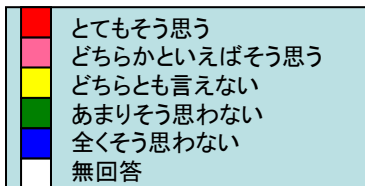
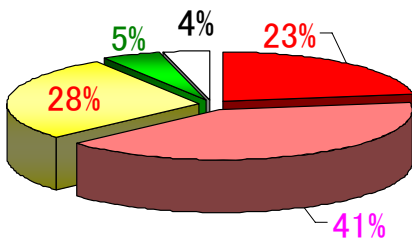
➡ 家庭・学校・地域において、積極的な態度を見せるきっかけとなっている。

(2) 地域子ども教室に参加している「子どもの保護者」へのアンケート

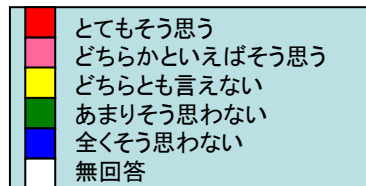
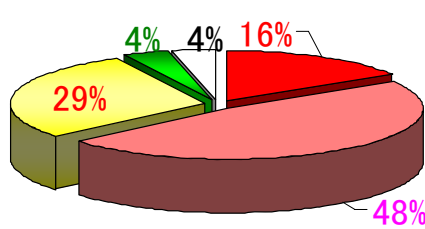
n=1403

お子さんが地域子ども教室に参加してから、どのような点がどれくらい変わったと感じますか？

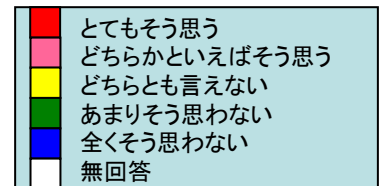
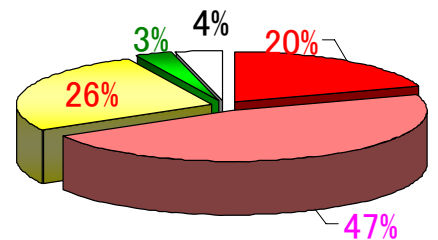
地域の行事に積極的に参加するようになった



地域の大人の人と挨拶をしたり話をしたりするようになった



興味のあることは自分で調べたりするようになった



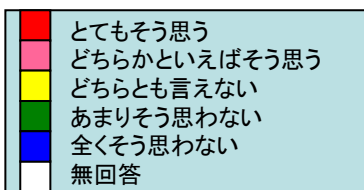
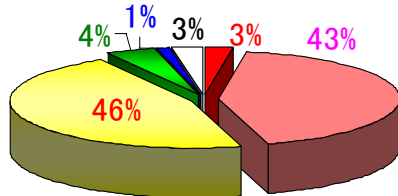
➡ 保護者も地域子ども教室の活動をとおして、子どもの成長を感じている。

(3) 地域子ども教室の活動場所となっている「学校長」へのアンケート n=206

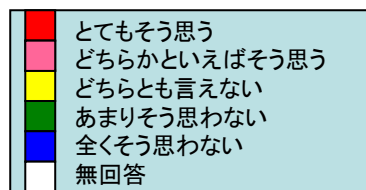
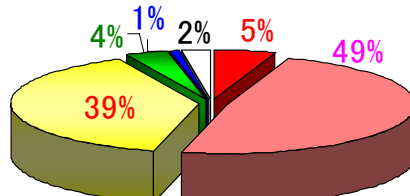
地域子ども教室の実施前と実施後と比較して、こどもたちの様子や態度に何か変化は見られましたか？

地域子ども教室の実施前と実施後と比較して、保護者や地域の大人の様子や活動に何か変化は見られましたか？

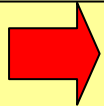
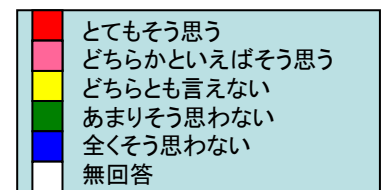
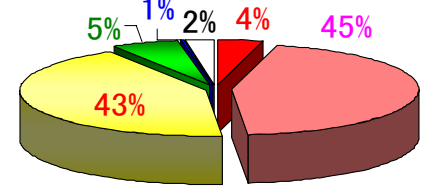
違う学年の友達とよく遊ぶようになったと思う



自分より年下の子どもの面倒をよく見るようになった



学校の様々な取組に対して、保護者や地域の協力がより得られるようになった



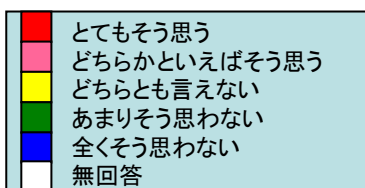
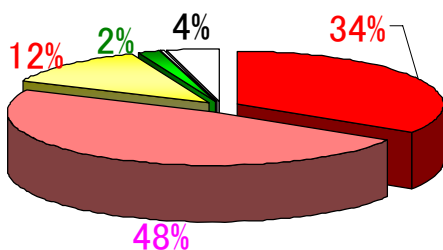
学校長は地域子ども教室の活動により、子どもや地域の大人の様子などが良い方向に変化していると認識している。

(4) 地域子ども教室に指導員等として参加した「地域の方々」へのアンケート

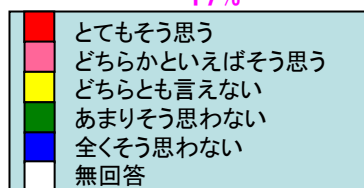
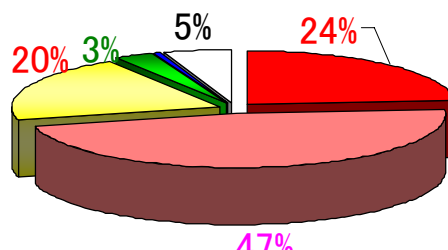
地域子ども教室に参加したことによって、あなたご自身の気持ちや暮らし方に何か変化はありましたか？

n=1089

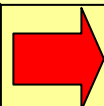
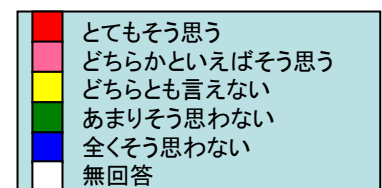
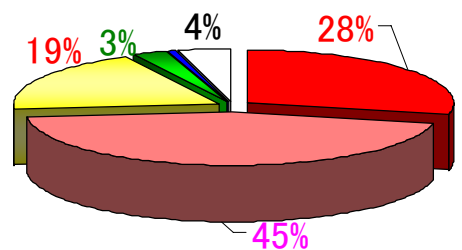
地域の子どもに対する意識や関心が高くなった



子どもの居場所づくりに関する取組に対して関心が高くなった



地域の中に友人・知人が増えた



参加した大人自身も、活動をとおして自分自身の変化を感じている。